

Canon

SPEEDLITE
600EX II-RT



使用説明書

はじめに

キヤノンスピードライト600EX II-RTは、E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光に対応したEOS用外部ストロボです。カメラのアクセサリシューに取り付けて使用するクリップオンストロボ（通常撮影）、電波通信／光通信ワイヤレスストロボ撮影時のマスター／スレーブストロボの機能を備えるとともに、EOS-1Dシリーズのカメラと同等の防塵・防滴性能を備えています。

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（8～9ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

カメラの使用説明書もあわせてお読みください

ご使用になる前に、本書とカメラの使用説明書をお読みになって理解を深め、操作に慣れた上で正しくお使いください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

カメラとの組み合わせについて

● EOSデジタルカメラ（Aタイプカメラ）との組み合わせ

「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるストロボ撮影を行うことができます。

● EOSフィルムカメラとの組み合わせ

● E-TTL II/E-TTL自動調光方式のカメラ（Aタイプカメラ）

「内蔵ストロボ撮影と同じような感覚」で、気軽に自動調光制御によるストロボ撮影を行うことができます。

● TTL自動調光方式のカメラ（Bタイプカメラ）

138ページを参照してください。








* 本書では、Aタイプカメラとの組み合わせを前提に説明しています。

章目次



	はじめに	2
1	撮影前の準備と簡単な撮影 ストロボ撮影の準備と基本的なストロボ撮影	17
2	ストロボ撮影応用編 ストロボの機能を活用した応用的なストロボ撮影	27
3	カメラ操作によるストロボの機能設定 カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法	51
4	電波通信ワイヤレスストロボ撮影 電波通信によるワイヤレス（マスター／スレーブ）ストロボ撮影	57
5	光通信ワイヤレスストロボ撮影 光通信によるワイヤレス（マスター／スレーブ）ストロボ撮影	89
6	ストロボのカスタマイズ カスタム機能、パーソナル機能によるカスタマイズ	109
7	資料 システム図、よくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせ	121

本使用説明書の表記について









本文中の絵文字について

-  : 選択ダイヤルを示しています。
-  : 選択/設定ボタンを示しています。
-  12 /  16 : 操作ボタンから指を離れたあと、ボタンを押した状態が約12秒/16秒間保持されることを示しています。
- (p. **)
-  : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
-  : 補足説明や補足事項を記載しています。
-  **応用** : ページタイトル右の **応用** は、カメラの撮影モードが〈P/Tv/Av/M/bulb(B)〉(応用撮影ゾーン)のときに機能することを示しています。

操作説明の前提について

- ストロボとカメラの電源が入っていることを前提に説明しています。
- 本文中のボタン、ダイヤル、マークなどは、ストロボとカメラに使われている絵文字を使用しています。
- ファンクションボタン4の位置に〈〉が表示されているときは、〈〉を押すと前の画面に戻ります。
- ストロボのカスタム機能/パーソナル機能、カメラのメニュー機能/カスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 発光回数などの各種数値は、単3形アルカリ乾電池を4本使用し、当社試験基準で測定した値です。

目次

はじめに	2
章目次	3
本使用説明書の表記について	4
機能目次	7
安全上のご注意	8
各部の名称	10
付属アクセサリ	16
1 撮影前の準備と簡単な撮影	17
電池を入れる	18
カメラに取り付ける／取り外す	20
電源を入れる	21
E-TTL : 全自動ストロボ撮影	24
撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影	25
2 ストロボ撮影応用編	27
 調光補正	28
 FEB	29
FEL: FE ロック	30
 ハイスピードシンクロ	31
 後幕シンクロ	32
 バウンス	33
 近距離ストロボ撮影	34
キャッチライト撮影	35
 バウンスアダプターを併用した撮影	36
Zoom : 照射角の設定	38
ワイドパネル	39
M : マニュアル発光	40
ストロボメータードマニュアル撮影	41
MULTI : マルチ発光	42
Ext.A/Ext.M : ストロボ外部調光	45
モデリング発光	47
 カラーフィルター	48
ストロボ設定初期化	50

3	カメラ操作によるストロボの機能設定	51
	カメラのメニュー画面からのストロボ制御	52
4	電波通信ワイヤレスストロボ撮影	57
	(P) 電波通信ワイヤレスストロボ撮影	58
	ワイヤレス設定	63
	ETTL : 全自動ワイヤレスストロボ撮影	68
	A:B : 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影	73
	M : 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影	77
	Gr : グループごとに発光モードを設定した撮影	79
	スレーブからのテスト発光／モデリング発光	82
	スレーブからのリモートリリース	83
	電波通信による連動撮影	84
5	光通信ワイヤレスストロボ撮影	89
	光通信ワイヤレスストロボ撮影	90
	ワイヤレス設定	92
	ETTL : 全自動ワイヤレスストロボ撮影	96
	A:B : 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影	101
	M : 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影	105
	INDIVIDUAL SLAVE スレーブで設定するマニュアル発光／マルチ発光	107
6	ストロボのカスタマイズ	109
	C.Fn / P.Fn : カスタム／パーソナル機能の設定方法	110
	C.Fn : カスタム機能で変更できる内容	113
	P.Fn : パーソナル機能で変更できる内容	118
7	資料	121
	600EX II-RT のシステム	122
	温度上昇による発光制限について	124
	故障かな?と思ったら	127
	主な仕様	133
	Bタイプカメラとの組み合わせ	138
	電波通信ワイヤレス機能について	139
	索引	145

機能目次

電源

- 電池 → p.18
- 発光間隔/回数 → p.18
- 電源ON/OFF → p.21
- 充電完了 → p.21
- クイック発光 → p.21
- オートパワーオフ → p.22

操作

- 取り付け/取り外し → p.20
- ロック機能 → p.22
- 表示パネル照明 → p.22

通常撮影

- E-TTL自動調光 → p.24
- 撮影モード別自動調光 → p.25
- マニュアル発光 → p.40
- マルチ発光 → p.42
- 外部調光オート → p.45
- 外部調光マニュアル → p.46
- ストロボメータードマニュアル → p.41
- TTL自動調光 → p.138

機能

- 調光補正 → p.28
- FEB → p.29
- FEロック → p.30
- ハイスピードシンクロ → p.31
- 後幕シンクロ → p.32
- モデリング発光 → p.47
- AF補助光 → p.26

- 照射角 → p.38
 - ・ワイドパネル → p.39
- バウンス → p.33
 - ・キャッチライト → p.35
 - ・アダプター → p.36
- カラーフィルター → p.48
- 設定初期化 → p.50
- ストロボ機能設定 → p.51
- 発光制限 → p.124
- Bタイプカメラ → p.138

電波通信ワイヤレス撮影

- E-TTL自動調光 → p.68
 - ・光量比 → p.73
- マニュアル発光 → p.77
- グループ発光 → p.79
- テスト発光/
モデリング発光 → p.82
- リモートリリース → p.83
- 連動撮影 → p.84
- メモリー機能 → p.67

光通信ワイヤレス撮影

- E-TTL自動調光 → p.96
 - ・光量比 → p.101
- マニュアル発光 → p.105
- メモリー機能 → p.95
- 単独スレープ → p.107

カスタマイズ

- カスタム機能 (C.Fn) → p.113
- パーソナル機能 (P.Fn) → p.118
- 一括解除 → p.112

安全上のご注意

下記注意事項は、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。内容をよく理解してから製品を正しく安全にお使いください。

故障、不具合、破損の際は、別紙の修理お問合せ専用窓口または、お買い上げ販売店にご連絡ください。



警告

下記の注意を守らないと、死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

- 発火、発熱、感電、破裂、液漏れの原因になりますので次のことは行わないでください。
 - ・ 本体・付属品・接続ケーブルなどの接点部に金属を差し込むこと。
 - ・ 指定以外の電池や変形または改造した電池を使用すること。
 - ・ 本体または電池のショート、分解、変形、加熱、ハンダ付け、火中投入、水中投入、強い衝撃を与えること。
 - ・ 電池の＋を逆に入れること。新品電池と使用済電池、種類の異なる電池の混用。
- 可燃性ガスのある所で使用しないでください。爆発、火災の原因になります。
- 車の運転者などに向けてストロボを発光しないでください。事故の原因になります。
- 分解、改造をしないでください。内部には高電圧回路が含まれており、感電の危険があります。
- 落下などにより機器内部が露出したときは、露出部に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 湿気やほこり、油煙の多い場所に保管しないでください。火災、感電の原因になります。
- 飛行機内や病院で使用するときは、航空会社や病院の指示に従ってください。本製品が出す電磁波が、計器や医療機器などに影響を与える恐れがあります。
- 熱くなる、煙が出る、焦げ臭い、液漏れ、変色、変形などの異常が発生したときは、やけどに十分注意して速やかに電池を抜いてください。そのまま使用すると火災、感電、やけどの原因になります。
- 電池や付属品は、お子様や幼児の手の届かない所に置いてください。万一飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。電池の液で胃腸が冒される恐れがあります。
- 製品を水に濡らさないでください。万一水に落としたり、内部に水または金属などの異物が入ったときは、速やかに電池を抜いてください。火災、感電、やけどの原因になります。
- 製品を布でおおったり、包んで使用しないでください。本製品が発熱し、火災の原因になります。
- 製品はお子様や幼児の手の届かないところで使用、保管してください。誤ってコードやストラップを首に巻き付けて窒息したり、感電、けがの原因になります。また、カメラやアクセサリーの部品を誤って飲み込むと、窒息したり、けがの原因になります。万一飲み込んだ際は、直ちに医師に相談してください。

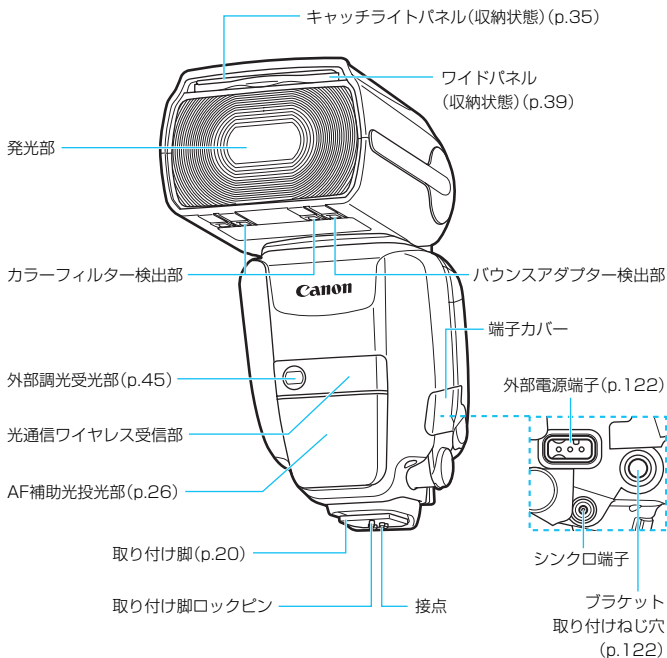
- 本製品を使用しないときは、電池を取り出し、電源パックやコードを取り外して保管してください。感電、発火、発熱、汚損の原因になります。
- 電池の液が目に入らないように、また皮膚や衣服に付かないように注意してください。失明や皮膚の障害を起こしたり、衣服が汚損する恐れがあります。電池の液が目に入ったり、皮膚に付いたときは、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 本製品を拭くときは、シンナーやベンジンなどの有機溶剤を使わないでください。火災や健康障害の原因になります。

**注意**

下記の注意を守らないと、けがを負う可能性または物的損害の発生が想定されます。

- 本製品を長期間使用しないときは、電池を抜いて保管してください。故障、汚損の原因になることがあります。
- 電池を廃却するときは、接点をテープなどで絶縁してください。他の金属や電池と混ざると発火、破裂の原因になることがあります。
- 直射日光下の車中、高温状態の車中や熱いものの近くで使用、保管、放置しないでください。製品自体が高温になり、触るとやけどの原因になることがあります。また、電池の発熱、破裂、液漏れなどの原因になることがあります。
- 発光部を人や物に密着させて発光させないでください。やけど、発火の原因になることがあります。
- ストロボを目に近付けて発光しないでください。目をいためる恐れがあります。
- 本製品を低温状態に放置しないでください。製品自体が低温になり、触れるとけがの原因になることがあります。
- 温度が高くなる部分に直接触れないでください。長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因になることがあります。
- 連続発光後に電池を交換すると、電池が熱くなっていることがあります。やけどの原因となりますので、電池交換の際は注意してください。

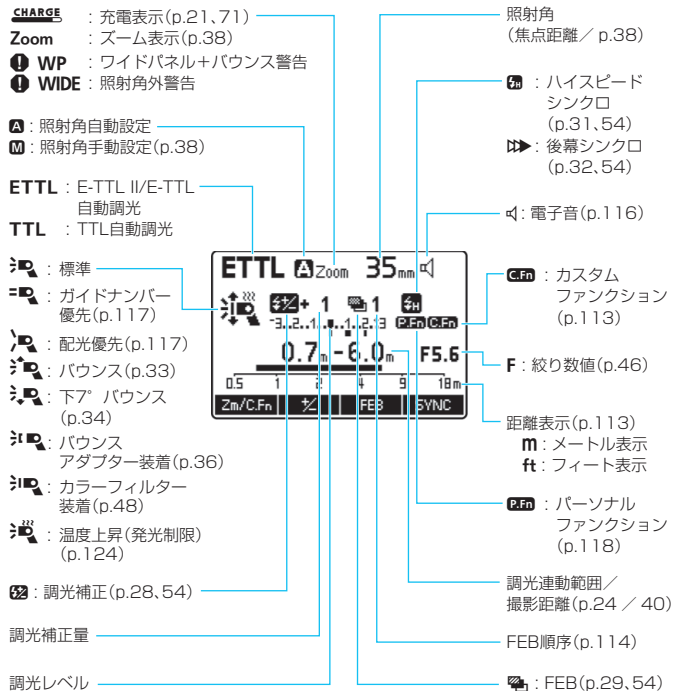
各部の名称



🔊 リモートリリース端子は備えていません(リリースケーブルSR-N3は使用できません)。

表示パネル

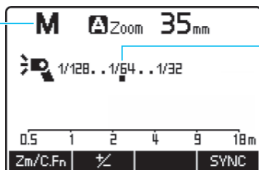
E-TTL II/E-TTL/TTL自動調光 (p.24)



- 画面は表示例です。設定に応じた部分のみ表示されます。
- ファンクションボタン1~4の上に表示される〈Zm/C.Fn〉〈%〉などは、設定に応じて表示が変わります。
- ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが照明されます (p.22)。

マニュアル発光 (p.40)

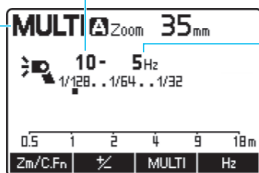
M : マニュアル発光



マニュアル発光量

マルチ発光 (p.42)

MULTI : マルチ発光



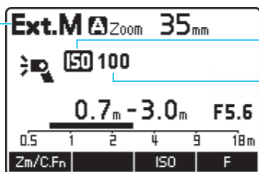
発光回数

発光周波数

外部調光オート／マニュアル (p.45／46)

Ext.A : 外部調光
オート

Ext.M : 外部調光
マニュアル



ISO : ISO 表示

ISO 感度

電波通信ワイヤレス撮影／光通信ワイヤレス撮影 (p.57／89)

● マスターストロボ

CHARGE : マスター／スレープ充電状態

TV : 同調速度警告 ((☎)のみ)

RATIO : 光量比制御

発光モード

ETTL : E-TTL II/E-TTL
自動調光

M : マニュアル発光

Gr : グループ発光
(☎のみ)

☎ : マスター
発光 ON

☎ : マスター
発光 OFF

発光グループ制御

MASTER : マスター設定

☎ : 電波通信ワイヤレス
⚡ : 光通信ワイヤレス

Ch : 通信チャンネル
AUTO : 通信チャンネル
自動設定 (☎のみ)

⚡ : スレープ充電完了
(☎のみ)

光量比

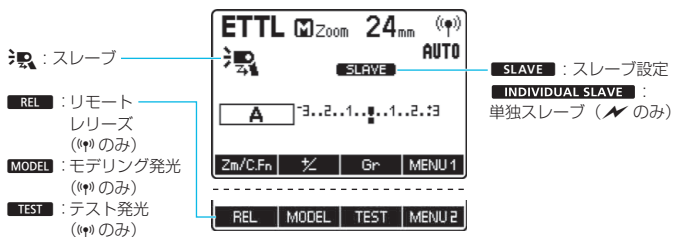
各グループ発光モード
(Grのみ)

マスター／スレープ
充電未完了

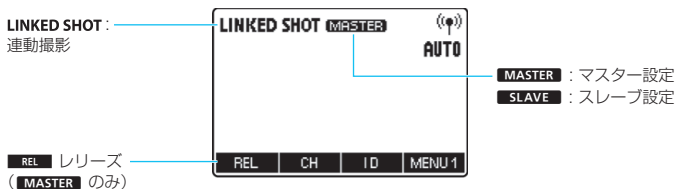
発光グループ
充電状態 (Grのみ)
□ : 充電未完了
■ : 充電完了

電波通信ワイヤレス撮影時は、マスターとスレープの充電が完了すると「**CHARGE**」が消えます。なお、〈Gr〉発光時は、すべてのストロボの充電が完了すると、「発光グループ充電状態」の表示も一緒に消えます。

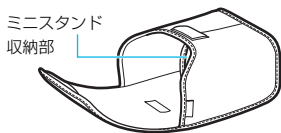
● スレーブストロボ



電波通信：連動撮影 (p.84)



付属アクセサリー



ストロボケース



ミニスタンド
(p.58、90)



バウンスアダプター
SBA-E3
(p.36)



カラーフィルター
SCF-E30R1
(p.48)



カラーフィルター
SCF-E30R2
(p.48)

1

撮影前の準備と簡単な撮影

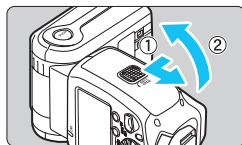
この章では、ストロボ撮影を行う前の準備と、基本的な撮影方法について説明しています。

🔊 連続発光に関するご注意

- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、連続フル発光は「照射角14mm/20mm/24mm時：30回」「照射角28mm時：35回」「照射角35mm～200mm時：50回」までにしてください。記載した回数分の連続フル発光を行ったときは、10分以上休止してください。
- 上記回数分の連続フル発光を行ったあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限レベル1のときは、発光間隔が強制的に約8秒になります。そのときは40分以上休止してください。
- 詳しい内容については、124ページ「温度上昇による発光制限について」を参照してください。

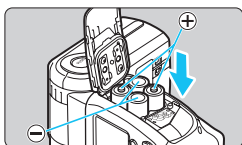
電池を入れる

電源には単3形電池4本を使用します。



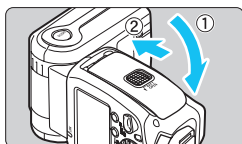
1 ふたを開ける

- ①のように、ロックレバーを左にスライドさせながら、ふたを下にスライドさせて、電池室ふたを開きます。



2 電池を入れる

- 表示にしたがって、「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。
- 電池室の側面の溝は、「-」を表しています。暗い場所で電池を交換するとき便利です。



3 ふたを閉める

- 電池室ふたを閉じて、上にスライドさせます。
- 「カチッ」と音がして、電池室ふたがロックされます。

発光間隔と発光回数

● 600EX II-RT単体

発光間隔		発光回数
クイック発光	通常発光	
約0.1～3.3秒	約0.1～5.5秒	約100～700回

- 新品の単3形アルカリ乾電池使用、当社試験基準による数値です。
- クイック発光は、フル充電前にストロボ撮影できる機能です (p.21)。


 注意

- 「単3形リチウム電池」は使用しないでください。
一部の「単3形リチウム電池」を使用した際に、まれに電池が非常に高温になることがあります。お客様の安全のため、「単3形リチウム電池」の使用はお控えください。
- 連続発光を行ったときは発光部や電池、電池室付近に触れないでください。
ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。発光部や電池、電池室付近が高温になり、やけどの原因になる恐れがあります。
- 長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

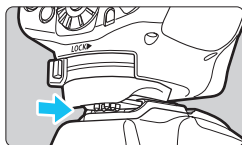


- アルカリ乾電池以外の単3形電池は、接点の形状が規格で統一されていないため、電池の種類により接触不良を起こすことがあります。
- コンパクトバッテリーパック CP-E4N（別売）使用時は、CP-E4N 使用説明書をあわせてお読みください。



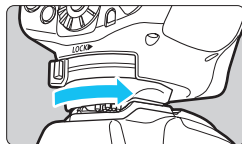
- 〈〉が表示されたときや、充電中に表示パネルの表示が消えてしまうときは、新しい電池に交換してください。
- 電池は4本とも新品で同一銘柄の電池を使用してください。電池の交換は4本同時に行ってください。
- 単3形ニッケル水素電池も使用できます。

カメラに取り付ける／取り外す



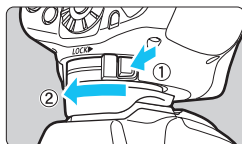
1 取り付ける

- ストロボの取り付け脚がアクセサリースューの奥に突き当たるまで、差し込みます。




2 固定する

- 取り付け脚ロックレバーを、右方向へスライドさせます。
→ 「カチッ」と音がしてロックされます。



3 取り外す

- ロック解除ボタンを押しながら、ロックレバーを左方向にスライドさせて、カメラから取り外します。

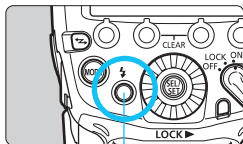
 ストロボの取り付け／取り外しは、必ずstroboの電源を切ってから行ってください。

電源を入れる



1 電源スイッチを〈ON〉にする

- ➔ 充電が始まります。
- ➔ 充電中は表示パネルに〈**CHARGE**〉が表示されます。充電が完了すると表示が消えます。



2 充電を確認する

- 充電ランプの状態が、消灯→**緑色**（クイック発光可能）→**赤色**（フル充電）の順に変わります。
- テスト発光ボタン（充電ランプ）を押すと、テスト発光を行うことができます。

充電ランプ
（テスト発光ボタン）

クイック発光機能について

クイック発光は、充電ランプが緑色の状態で（フル充電前に）ストロボ撮影ができる機能です。カメラのドライブモードの設定に関わらず機能します。発光量はフル発光時の約1/2～1/6になりますが、発光間隔を短くしたいときに有効です。

マニュアル発光時は、発光量が1/4～1/128に設定されているときに機能します。なお、マルチ発光、ワイヤレスストロボ撮影時はクイック発光できません。



- 連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。
- カメラの⦿4 / ⦿6 / ⦿8 / ⦿10 / ⦿16タイマーが動いているときは、テスト発光できません。



電波通信ワイヤレスマスター設定時の〈**CHARGE**〉の表示については、71ページを参照してください。


オートパワーオフ機能について

電池の消耗を防ぐため、約90秒間何も操作しないと自動的に電源が切れます。もう一度電源を入れるときは、カメラのシャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタン（充電ランプ）を押します。


なお、電波通信ワイヤレス撮影時のマスターストロボ（p.58）、連動撮影（p.86）のときは、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。

ロック機能について

電源スイッチを〈LOCK〉にすると、ストロボのボタンやダイヤル操作を禁止することができます。ストロボの機能の設定を行ったあと、不用意に設定が変わらないようにしたいときに使用します。

ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルに〈LOCKED〉が表示されます。なお、ロック中はファンクションボタン1～4の上に表示される〈Zm/C.Fn〉〈〉などは表示されません。

表示パネル照明について

ボタン、ダイヤルを操作すると、表示パネルが約12秒間照明されます（12）。

通常のストロボ撮影、および電波通信／光通信ワイヤレス撮影時のマスターストロボ（p.58／90）、連動撮影時のマスターカメラ（p.84）のときは、緑色に照明されます。

電波通信／光通信ワイヤレス撮影時のスレーブストロボ、連動撮影時のスレーブカメラのときは、オレンジ色に照明されます。

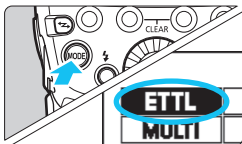
なお、電波通信ワイヤレスマスター設定時の表示パネル照明については、71ページを参照してください。



- ストロボの設定状態は、電源を切っても記憶されています。なお、電池交換時に設定状態を保持したいときは、電源を切ってから電池を交換してください。
- 電源スイッチが〈LOCK〉でもテスト発光を行うことができます。また、ボタンやダイヤルを操作すると、表示パネルの照明が行われます。
- 充電完了時に電子音を鳴らすことができます (C.Fn-20/p.116)。
- オートパワーオフ機能が働かないようにすることができます (C.Fn-01/p.113)。
- 表示パネル照明の設定を変更することができます (C.Fn-22/p.117)。
- 表示パネル照明の色を変更することができます (P.Fn-02~04/p.118)。
- クイック発光を禁止することができます (P.Fn-05/p.119)。
- 連動撮影時 (p.84) に、P.Fn-06-1に設定したときは (p.119)、クイック発光を行うことができます。

ETTL: 全自動ストロボ撮影

カメラの撮影モードを〈P〉(プログラムAE)、または「全自動」に設定すると、「カメラまかせのE-TTL II/E-TTL全自動ストロボ撮影」を行うことができます。



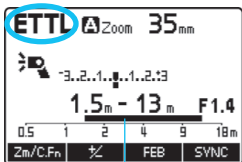
1 発光モードを〈ETTL〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈ETTL〉を選び、〈〉を押します。
- 〈MASTER〉〈SLAVE〉が表示されていないことを確認します。

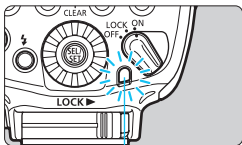


2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➔ ファインダー内に、シャッター速度と絞り数値が表示されます。
- ファインダー内に〈〉が点灯していることを確認します。



調光連動範囲



調光確認ランプ

3 撮影する

- 被写体が調光連動範囲に入っていることを確認します。
- シャッターボタンを全押しすると、ストロボが発光し、撮影が行われます。
- ➔ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約3秒間点灯します。

- 調光確認ランプが点灯しなかったときや、撮影画像を確認して被写体が暗い(露出アンダーの)ときは、被写体に近づいて再度撮影します。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。
- 「全自動」は〈〉〈〉〈〉の撮影モードのことです。
- E-TTL II対応のカメラに取り付けたときも、表示パネルには〈ETTL〉と表示されます。

撮影モード別 E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影

カメラの撮影モードを〈Tv〉(シャッター優先AE)、〈Av〉(絞り優先AE)、〈M〉(マニュアル露出)に設定するだけで、それぞれの撮影モードに応じたE-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

Tv	<p>任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。 設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で標準露出となる絞り数値が自動設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none">● 絞り数値が点滅するときは、背景が露出アンダー、またはオーバーになります。絞り数値が点灯するようにシャッター速度を変更してください。
Av	<p>任意の絞り数値を設定したいときに選択します。 設定した絞り数値に対し、カメラの測光で標準露出となるシャッター速度が自動設定されます。</p> <p>暗い場所では、主被写体も背景も標準露出となる「スローシンクロ撮影」になります。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出になります。</p> <ul style="list-style-type: none">● 暗い場所ではシャッター速度が遅くなるため、三脚を使用しておすすめる撮影することをおすすめします。● シャッター速度が点滅するときは、背景が露出アンダー、または露出オーバーになります。シャッター速度が点灯するように絞り数値を変更してください。
M	<p>シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。 主被写体はストロボ光で標準露出になります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。</p>

- 〈DEP〉〈A-DEP〉で撮影したときは、〈P〉(プログラムAE)によるストロボ撮影と同じ結果になります。

撮影モード別ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

	シャッター速度	絞り数値
P	自動設定 (1/X~1/60秒)	自動設定
Tv	手動設定 (1/X~30秒)	自動設定
Av	自動設定 (1/X~30秒)	手動設定
M	手動設定 (1/X~30秒、Bulb)	手動設定

- 1/X秒は、各カメラのストロボ同調最高シャッター速度です。

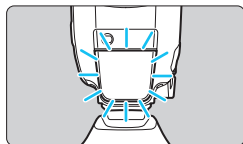
画面サイズ対応自動ズームについて

EOS デジタルカメラには3種類の画面サイズがあり、装着したレンズの有効撮影画角は画面サイズによって異なります。本機では各EOS デジタルカメラの画面サイズを自動認識して、20～200mmの範囲でレンズの有効撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

色温度情報通信について

ストロボ発光時の色温度情報をEOS デジタルカメラに伝えることで、ストロボ撮影時のホワイトバランスを最適にする機能です。カメラのホワイトバランスが、〈AWB〉〈☑〉のときに自動的に働きます。対応カメラについては、カメラ使用説明書の「主な仕様」を参照してください。

AF補助光について



ファインダー撮影時に暗い場所でピント合わせを行ったときや、被写体のコントラストが低いときなど、AFでピントが合いにくいときは、AFによるピント合わせを補助するため、ストロボに内蔵された赤外光方式のAF補助光が自動的に光ります。

なお、AF補助光はすべてのEOSカメラのAFフレームに対応しています。AF補助光の対応画角はレンズ焦点距離28mm以上、有効距離はファインダー内中央：約0.6～10m／周辺（中央以外）：約0.6～5mです（焦点距離28mm時）。

🔊 カメラで外側寄りのAFフレームを選択しているときや、広角／望遠レンズを使用しているときは、EOS用外部ストロボのAF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央AFフレーム、または中央寄りのAFフレームを選択してください。

- 📷
- ライブビュー撮影時にAF方式が [クイックAF] [クイックモード] に設定されているときも、AF補助光が投光されます。
 - AF補助光の投光を禁止することができます（C.Fn-08/p.115）。

2

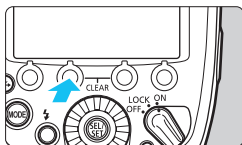
ストロボ撮影応用編

この章では、ストロボの機能を活用した応用的な撮影方法について説明しています。

🗨 カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、ページタイトル右に **応用** が付いている機能は設定できません。カメラの撮影モードを **〈P/Tv/Av/M/bulb(B)〉** (応用撮影ゾーン) にすると、この章のすべての操作を行うことができます。

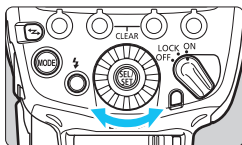
調光補正 応用

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。



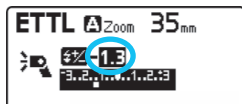
1 <1/3> ボタンを押す

- ファンクションボタン2 <1/3> を押します。
- <1/3> を押して設定することもできます。
- <1/3> が表示され、補正量が反転します。



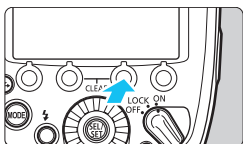
2 補正量を設定する

- <1/3> を回して補正量を設定し、<1/3> を押します。
- 補正量が設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を解除するときには、補正量を「±0」に戻します。



- 一般的に、白い被写体に対してはプラス補正、黒い被写体に対してはマイナス補正を行います。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- ストロボとカメラの両方で調光補正を行ったときは、ストロボ側の設定が優先されます。
- <1/3> ボタンを押さずに、直接 <1/3> を回して調光補正量を設定することができます (C.Fn-13/p.116)。

ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。これをFEB (Flash Exposure Bracketing) 撮影といいます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。



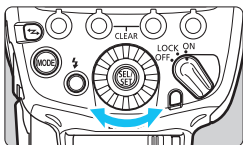
1 < FEB > ボタンを押す

- ファンクションボタン3 < FEB > を押します。
- ➔ < FEB > が表示され、FEBレベルの表示が反転します。



2 FEBレベルを設定する

- < 設定ダイヤル > を回して FEB レベルを設定し、< 設定ボタン > を押します。
- ➔ FEBレベルが設定されます。
- 「0.3」は1/3段、「0.7」は2/3段です。
- 調光補正を併用したときは、設定した補正量を中心にしてFEB撮影が行われます。±3段を超えるときは、調光レベルの端が < 左向き > または < 右向き > になります。

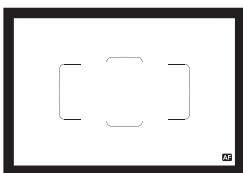


- 3枚撮影後、FEBは自動解除されます。
- FEB撮影を行うときは、カメラのドライブモードを1枚撮影に設定し、充電を確認してから撮影することをおすすめします。ドライブモードが連続撮影のときは、3枚連続撮影して自動停止します。
- 調光補正やFEロックと組み合わせて、FEB撮影を行うこともできます。
- カメラの露出設定が1/2段ステップのときは、1/2段ステップ±3段になります。
- 3枚撮影後にFEBが自動的に解除されないようにすることができます (C.Fn-03/p.114)。
- FEBの撮影順序を変更することができます (C.Fn-04/p.114)。

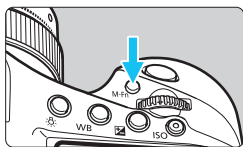
FEL: FE ロック 応用

FE (Flash Exposure) ロックは、被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影です。

表示パネルに **<ETTL>** が表示されている状態で、カメラの **<M-Fn>** ボタンを押します。**<M-Fn>** ボタンのないカメラは、**<★>** (AEロック) または **<FEL>** ボタンを押します。



1 被写体にピントを合わせる



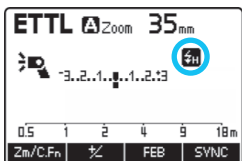
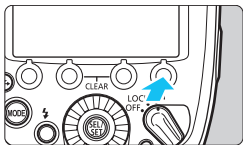
2 <M-Fn> ボタンを押す (Ⓜ16)

- 被写体をファインダーの中央に置いてカメラの **<M-Fn>** ボタンを押します。
- ➔ ストロボがプリ発光し、被写体に必要な発光量が記憶されます。
- ➔ ファインダー内に「**FEL**」が約0.5秒間表示されます。
- **<M-Fn>** ボタンを押すたびにプリ発光し、そのときに必要な発光量が記憶されます。




- FEロックを行ったときに適切な露出が得られないときは、ファインダー内の **<f>** が点滅します。被写体に近づくか絞りを開いて、再度FEロックを行ってください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げて再度FEロックを行うこともできます。
- ファインダーの視野に対して被写体が小さいときは、FEロックの効果が得られないことがあります。


ハイスピードシンクロ 応用




ハイスピードシンクロ機能を使用すると、ストロボ同調最高シャッター速度を超える速いシャッター速度でもストロボ撮影ができるようになります。日中の屋外などで、〈Av〉（絞り優先AE）モードで被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。



〈〉を表示させる

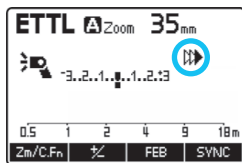
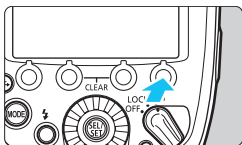
- ファンクションボタン4 〈〉を押して、〈〉を表示させます。
- ファインダー内に〈〉が点灯していることを確認してから撮影します。

 ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほどガイドナンバーが低下します。調光連動範囲は表示パネルで確認することができます。

- シャッター速度がストロボ同調最高シャッター速度以下のときは、ファインダー内に〈〉は表示されません。
- 通常の発光に戻すときは、ファンクションボタン4 〈〉を押して〈〉の表示を消します。

▶▶ 後幕シンクロ 応用

低速シャッターで後幕シンクロを行うと、車のライトなど、動いている被写体の光源の軌跡を自然な感じで写すことができます。撮影が終了する(シャッターが閉じる)直前にストロボが発光します。



◀▶▶▶ を表示させる

- ファンクションボタン4 (SYNC) を押して、◀▶▶▶ を表示させます。

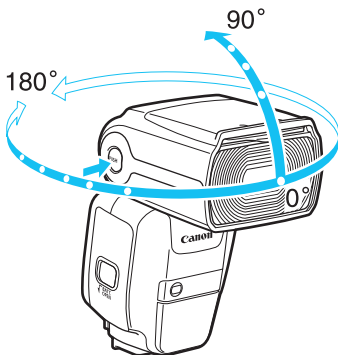
- カメラの撮影モードを ◀bulb(B) (バルブ撮影) にすると、後幕シンクロ撮影がしやすくなります。
- 発光モードが ◀ETTL のときは、ストロボが2回発光します。1回目の発光は、発光量を決めるためのプリ発光ですので、故障ではありません。
- ワイヤレスストロボ撮影時は、後幕シンクロはできません。
- 通常の発光に戻るときは、ファンクションボタン4 (SYNC) を押して ◀▶▶▶ の表示を消します。

☼ バウンス

ストロボの発光部を天井や壁に向けて発光させ、その反射光を利用して撮影すると、被写体による影が緩和されて、より自然な感じで写すことができます。この撮影方法を「バウンス撮影」といいます。

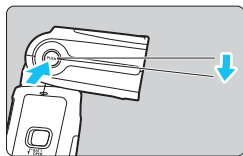
発光部の向きを決める

- 図のように、〈**PUSH**〉ボタンを押しながら発光部の向きを変えることができます。発光部の向きを変えたときは、表示が〈☼〉になります。
- 照射角を〈**A**〉（自動設定）に設定した状態で発光部の向きを変えると、照射角が50mmに設定され、〈---〉と表示されます。
- 照射角を手動で設定することもできます（p.38）。




- ストロボ光をバウンスさせる天井や壁までの距離が離れていると、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。
- 撮影した画像が暗いときは、より小さな絞り数値を設定して（絞りを開いて）再度撮影してください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。
- ストロボ光をバウンスさせる天井や壁は、無地の白に近い色をした反射率の高いものを選んでください。反射面に色がついていると、撮影結果がその色の影響を受けたり、反射光が届かず適切な露出で撮影できないことがあります。
- バウンス撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。

近距離ストロボ撮影



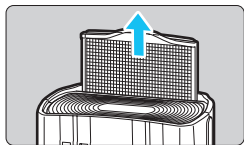
〈PUSH〉ボタンを押しながら発光部を下方向7°の位置にすると、約0.5～2mの範囲にある、撮影距離が近い被写体を撮影することができます。

下方向7°の位置にしたときは、表示が〈〉になります。

キャッチライト撮影

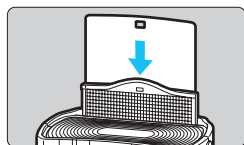
キャッチライトパネルを使ってポートレート撮影を行うと、人物の目に光が写り込み、表情をより生き生きとさせることができます。

1 発光部を上方向90°にする



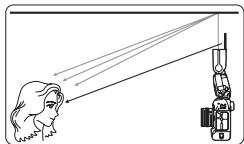
2 ワイドパネルを引き上げる

- ワイドパネルの中央にある突起を引き上げます。
- ➔ 白いキャッチライトパネルも一緒に引き出されます。



3 ワイドパネルを押し戻す

- ワイドパネルだけを押し戻し、キャッチライトパネルだけが上がった状態にします。
- バウンス撮影と同じ方法で撮影します。



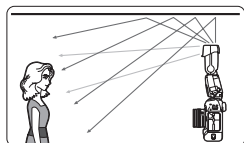
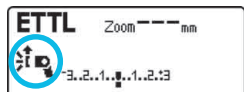
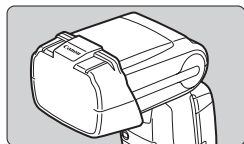
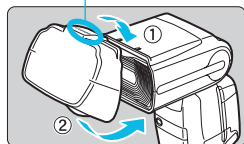
- 発光部の位置は正面・上方向90°にしてください。発光部を左右に回転させるとキャッチライトの効果は得られません。
- 人物の目にキャッチライトを効果的に入れるため、被写体から約1.5m以内 (ISO100・F2.8時) の距離で撮影してください。
- ワイドパネルを強い力で引き上げないでください。ワイドパネルがストロボから外れる恐れがあります。

📷 バウンスアダプターを併用した撮影

付属のバウンスアダプターをストロボに装着して、ストロボ光を天井や壁などにバウンスさせて撮影すると、ストロボ光がより広範囲に拡散されて和らぎ、被写体の影を抑えることができます。

また、発光部を90°の位置にして天井などにバウンスさせたときは、バウンスアダプターの側面から拡散されたストロボ光が被写体の正面から当たり（撮影距離の目安：約1.5m以内／ISO100・F2.8時）、被写体の影をさらに抑えることができます。人物撮影のときはキャッチライト効果も得られます。

“Canon” ロゴ



1 バウンスアダプターを取り付ける

- 図のようにアダプターをストロボの発光部に「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。
- 表示が「📷」になっていることを確認します。
- アダプターを取り外すときは、逆の手順でアダプターの下側にある取り外し爪を浮かせて発光部から取り外します。

2 撮影する

- 天井や壁などにバウンスさせて撮影します。



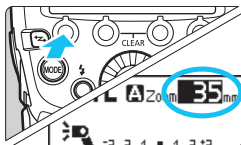
- バウンスアダプター装着時や、バウンスアダプター+ワイドパネル併用時は、ガイドナンバーが低下して露出不足になりやすいため、必要に応じてカメラのISO感度を上げたり、調光補正 (p.28) を行ってください。
- バウンスアダプター装着時にクイック発光 (p.21) を行うと、発光量が不足することがあるため、充電ランプが赤色になってから撮影することをおすすめします。
- バウンスアダプター装着時は、照射角が自動設定されます。任意に変更することはできません (〈Zm/C.Fn〉ボタンを押したときは、〈BOUNCE ADAPTER〉が表示されます)。
- 2004年までに発売されたEOSデジタルカメラを使用して、ストロボにバウンスアダプターを装着したときは、ホワイトバランスを〈AWB〉に設定してください。〈⚡〉の設定で撮影すると、適切なホワイトバランスが得られないことがあります。



- ワイドパネルを併用すると (p.39)、さらに光を和らげることができます。
- 撮影画像を確認して被写体が暗い (露出アンダーの) ときは、調光補正 (p.28) を行ってください。デジタルカメラでは、ISO感度を上げる方法もあります。

Zoom: 照射角の設定 応用

照射角（ストロボ光を照射する範囲）を、自動または手動で設定することができます。〈A〉（自動設定）のときは、使用するレンズの焦点距離（撮影画角）、画面サイズ（p.26）に応じて照射角が自動調整されます。〈M〉（手動設定）のときは、20～200mmの範囲で任意に設定することができます。



1 〈Zm/C.Fn〉 ボタンを押す

- ファンクションボタン1 〈Zm/C.Fn〉 を押します。
- 照射角の数値が反転します。



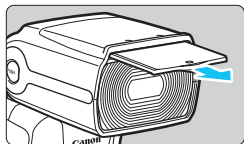
2 照射角を設定する

- 自動設定にするときは〈A〉を選びます。手動設定するときには〈M〉と（レンズの焦点距離mmを表す）数値を選びます。
- 〈Z〉を回して照射角を設定し、〈Z〉を押します。

- 照射角を手動設定するときは、撮影した写真の周辺が暗くならないように、撮影画角と同じか、撮影画角よりも広い照射角を設定します。
- 焦点距離が20mmより短いレンズを装着したときは、表示パネルに警告〈WIDE〉が表示されます。なお、画面サイズがフルサイズ以外のカメラを使用したときは、実際の撮影画角が20mmレンズ相当の画角よりも広いときに警告〈WIDE〉が表示されます。
- カメラとストロボのシンクロ端子を市販のシンクロコードで接続して撮影するときは、照射角を手動で設定してください。

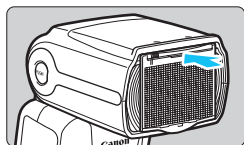
ワイドパネル

ストロボに内蔵されたワイドパネルを併用すると、焦点距離14mmの超広角レンズの撮影画角に対応したストロボ撮影を行うことができます。



1 ワイドパネルを引き出す


- ワイドパネルの中央にある突起を引き出します。
- ➔ 白いキャッチライトパネルも一緒に引き出されます。



2 キャッチライトパネルを押し戻す

- キャッチライトパネルだけを押し戻し、ワイドパネルが下がった状態にします。

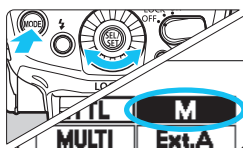
- ❗ ワイドパネルを使用してバウンス撮影を行うと露出不足になりやすいため、表示パネルに警告〈❗ WP〉が表示されます。
- ワイドパネルを強い力で引き出さないでください。ワイドパネルがストロボから外れる恐れがあります。
- EF15mm F2.8フィッシュアイ、EF8-15mm F4LフィッシュアイUSMの撮影画角には対応していません。

 ワイドパネル使用時は照射角が自動設定されます。任意に変更することはできません(〈Zm/C.Fn〉ボタンを押したときは、〈WIDE PANEL〉が表示されます)。

M: マニュアル発光 応用

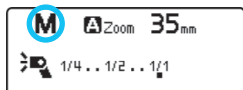
フル発光（1/1）から1/128発光まで、発光量を1/3段ステップで設定することができます。

市販のフラッシュメーターを使用して発光量を決めると、正確な露出を得ることができます。カメラの撮影モードを〈Av〉または〈M〉に設定することをおすすめします。



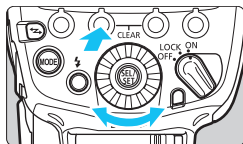
1 発光モードを〈M〉にする

- 〈MODE〉 ボタンを押します。
- 〈SEL/SET〉 を回して 〈M〉 を選び、〈SEL/SET〉 を押します。



2 発光量を設定する

- ファンクションボタン2 〈Fn2〉 を押します。
- 発光量レベルが反転します。
- 〈SEL/SET〉 を回して発光量を設定し、〈SEL/SET〉 を押します。



撮影距離 絞り数値

- シャッターボタンを半押しすると、撮影距離の目安と絞り数値が表示されます。

- マニュアル発光時のガイドナンバーについては、137ページを参照してください。
- 〈Fn2〉 ボタンを押さずに、直接 〈SEL/SET〉 を回して発光量を設定することができます (C.Fn-13/p.116)。

ストロボメーターマニュアル撮影

EOS-1Dシリーズ使用時に、手動で調光レベルを決めて撮影することができます。被写体との距離が近いときに有効です。市販の18%標準反射板を使って次のように撮影します。

1 カメラとストロボの機能を設定する

- カメラの撮影モードを〈M〉または〈Av〉にします。
- ストロボの発光モードを〈M〉にします。

2 ピントを合わせる

- 手動で被写体にピントを合わせます。

3 18%標準反射板をセットする

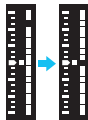
- 標準反射板を被写体の位置に置きます。
- ファインダー内中央のスポット範囲の領域全体に、標準反射板がくるようにします。

4 〈M-Fn〉または〈*〉〈FEL〉ボタンを押す (Ⓜ16)

- ➔ ストロボがプリ発光し、適正調光に必要な発光量が記憶されます。
- ➔ ファインダー内右側の露出レベル表示に、標準露出に対する調光レベルが表示されます。


5 調光レベルを設定する

- 調光レベルが標準露出指標の位置にくるように、ストロボのマニュアル発光量と絞り数値を設定します。



6 撮影する

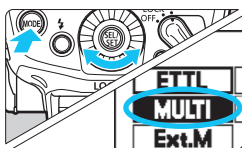
- 標準反射板を取り除いて撮影します。

 EOS-1Dシリーズ以外のカメラでは、ストロボメーターマニュアル撮影はできません。



MULTI: マルチ発光 応用

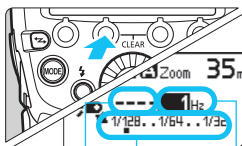
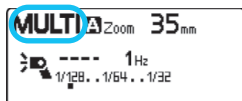
低速シャッターでマルチ発光を行うと、一枚の写真の中に連続した動きを分解写真のようにして、重ねて撮影することができます。

マルチ発光では、発光量、発光回数、発光周波数（1秒間の発光回数＝Hz）を設定します。最大連続発光回数については、44ページを参照してください。




1 発光モードを〈MULTI〉にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈MULTI〉を選び、〈〉を押します。

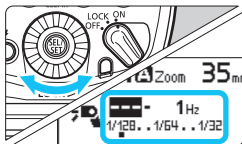


2 項目を選ぶ



- 発光量は〈〉、発光回数は〈MULTI〉、発光周波数は〈Hz〉が表示されているファンクションボタンを押します。

→ 押したボタンの項目が設定できるようになります。

発光回数 発光周波数
発光量



3 数値を設定する



- 〈〉を回して数値を設定し、〈〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、発光量、発光回数、発光周波数を設定します。

シャッター速度の求め方

マルチ発光を行うときは、連続発光が終わるまでシャッターが開いているように、以下の計算式から求めたシャッター速度をカメラに設定します。

発光回数 ÷ 発光周波数 = シャッター速度

例えば、発光回数10（回）、発光周波数5（Hz）で撮影するときは、シャッター速度を2秒以上に設定します。

-  ● 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、マルチ発光による繰り返し撮影は30回までにしてください。30回撮影したときは、10分以上休止してください。
 - 30回を超えて繰り返し撮影を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。そのときは40分以上休止してください。
-
-  ● マルチ発光を行うときは、反射率の高い被写体と暗い背景の組み合わせが最も効果的です。
 - 三脚、リモートスイッチ、コンパクトバッテリーパック CP-E4N（別売／p.123）の使用をおすすめします。
 - 1/1発光、1/2発光は設定できません。
 - カメラの撮影モードが **(bulb(B))**（バルブ撮影）でもマルチ発光を行うことができます。
 - 発光回数の表示が「---」のときは、シャッターが閉じるか、充電が切れるまで連続発光しますが、最大連続発光回数は次ページの表のとおりになります。
 - マルチ発光時にハイスピードシクロ（p.31）はできません。

最大連続発光回数

発光量 \ Hz	1	2	3	4	5	6-7	8-9
1/4	7	6	5	4	4	3	3
1/8	14	14	12	10	8	6	5
1/16	30	30	30	20	20	20	10
1/32	60	60	60	50	50	40	30
1/64	90	90	90	80	80	70	60
1/128	100	100	100	100	100	90	80

発光量 \ Hz	10	11	12-14	15-19	20-50	60-199	250-500
1/4	2	2	2	2	2	2	2
1/8	4	4	4	4	4	4	4
1/16	8	8	8	8	8	8	8
1/32	20	20	20	18	16	12	10
1/64	50	40	40	35	30	20	15
1/128	70	70	60	50	40	40	30

発光回数が「---」（バー表示）のときの最大発光回数は、下表のとおりです。

● 1~199Hz設定時

発光量	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
発光回数	2	4	8	12	20	40

● 250~500Hz設定時

発光量	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128
発光回数	2	4	8	10	15	30

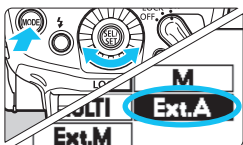
Ext.A/Ext.M: ストロボ外部調光 応用

ストロボに内蔵された外部調光用センサーで、被写体に反射したストロボ光をリアルタイムで測光し、標準露出になった時点でストロボの発光を自動停止する方式のストロボ撮影です。

「外部調光オート」は、2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラ使用時に機能します。「外部調光マニュアル」は、すべてのEOSカメラで機能します。

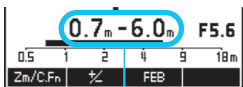
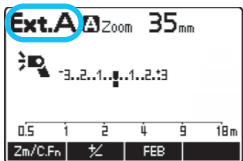
Ext.A: 外部調光オート

カメラまかせの自動ストロボ撮影を行うことができます。カメラに設定されているISO感度、絞り数値に応じて、発光量が自動調整されます。



発光モードを〈Ext.A〉にする

- 〈MODE〉 ボタンを押します。
- 〈〉 を回して〈Ext.A〉を選び、〈〉 を押します。



調光連動範囲

- シャッターボタンを半押しすると、調光連動範囲が表示されます。





- 〈Ext.A〉 設定時は、調光補正 (p.28)、FEB撮影 (p.29) を行うことができます。
- 〈Ext.A〉 が表示されないときは、ストロボのカスタム機能を、C.Fn-05-2に設定してください (p.114)。

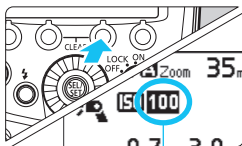
Ext.M: 外部調光マニュアル

カメラに設定されているISO感度、絞り数値を、ストロボに手動で設定します。設定したISO感度、絞り数値に応じて、発光量が自動調整されます。





1 発光モードを〈Ext.M〉にする

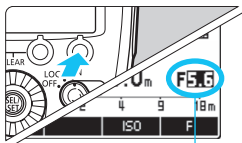
- 〈MODE〉 ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈**Ext.M**〉を選び、〈〉を押します。



ISO感度



2 カメラと同じISO感度を設定する

- ファンクションボタン3 〈**ISO**〉を押します。
- ISO感度の数値が反転します。
- 〈〉を回してISO感度を設定し、〈〉を押します。
- 1/3段ステップ、ISO25～51200の範囲で設定することができます。



絞り数値

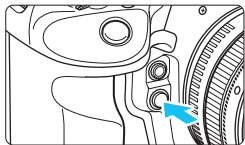
3 カメラと同じ絞り数値を設定する

- ファンクションボタン4 〈**F**〉を押します。
- 絞り数値が反転します。
- 〈〉を回して絞り数値を設定し、〈〉を押します。
- 設定したISO感度、絞り数値に応じた調光連動範囲が表示されます。

- 〈**Ext.M**〉設定時に、カメラとストロボのシンクロ端子を市販のシンクロコードで接続すると、ストロボをカメラから離して撮影することができます。
- ストロボのシンクロ端子に、別のストロボをシンクロコードで接続しても発光しません。
- 手順1で〈**Ext.M**〉が表示されないときは、ストロボのカスタム機能を、C.Fn-05-3に設定してください (p.114)。

モデリング発光 応用

カメラの絞り込みボタンを押すと、ストロボが約1秒間連続的に発光します。この機能を「モデリング発光」といいます。ストロボ光による被写体の影の出かたや、ワイヤレスストロボ撮影時（p.57、89）にライティングのバランスを確認するときには有効です。



カメラの絞り込みボタンを押す

- ➔ ストロボが約1秒間連続的に発光します。



- 過熱による発光部の劣化と損傷を防ぐため、モデリング発光は「照射角14mm/20mm/24mm時：20回」「照射角28mm時：25回」「照射角35mm～200mm時：30回」までにしてください。記載した回数のモデリング発光を行ったときは、10分以上休止してください。
- 上記回数のモデリング発光を行ったあと、さらに短時間に繰り返し発光を行うと、安全機能が働いて発光制限が行われることがあります。発光制限レベル1のときは、発光間隔が強制的に約8秒になります。そのときは40分以上休止してください。
- ライブビュー撮影時は、(カメラ側操作による) モデリング発光はできません。
- EOS M3、EOS M2、EOS M、EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、NEW EOS Kiss、EOS Kiss Lite、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50と組み合わせたときは、(カメラ側操作による) モデリング発光はできません。C.Fn-02を1または2に設定して（p.113）、テスト発光ボタンでモデリング発光を行ってください。



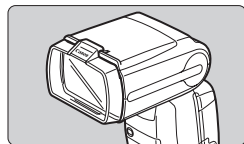
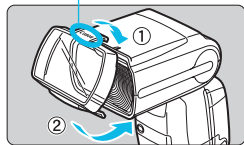
通常のストロボ撮影、および電波通信／光通信ワイヤレス撮影時のマスターストロボのときに、テスト発光ボタンでモデリング発光を行うことができます（C.Fn-02/p.113）。

🌈 カラーフィルター


白熱電球照明（タングステン光源）下でストロボ撮影を行うと、ストロボ光が届かない被写体の背景が、赤みがかった不自然な色になることがあります。付属のカラーフィルターをストロボに装着して撮影すると、カメラのホワイトバランス機能によって自動補正が行われ、被写体と背景を適切なホワイトバランスで写すことができます。

フィルター	濃度	補正効果	用途
カラーフィルター (オレンジ色)	淡	弱	白熱電球による影響を補正
	濃	強	



“Canon” ロゴ

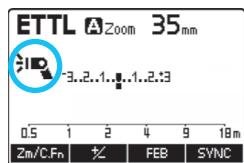


1 カラーフィルターを取り付ける

- 図のようにフィルターをストロボの発光部に「カチッ」と音がするまで確実に取り付けます。
- 表示が  になっていることを確認します。
- フィルターを取り外すときは、逆の手順でフィルターの下側にある保持爪を浮かせて発光部から取り外します。

2 撮影する

- カメラのホワイトバランスを、 に設定して撮影します。
- 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラでは、ホワイトバランスを  に設定して撮影することもできます（EOS Kiss X70を除く）。
- 撮影結果を確認して、必要に応じてカメラ側でホワイトバランス補正を行ってください。





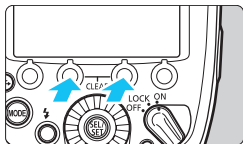
- カラーフィルター使用時はガイドナンバーが低下します。マニュアル発光、マルチ発光を行うときは、「淡」フィルター：+1/3段、「濃」フィルター：+1段を目安に発光量を補正してください。
- 付属のカラーフィルターに市販のカラーフィルターを重ねて使用しないでください。



- 色温度情報通信に対応していないカメラのときは (p.26)、撮影する環境下でカラーフィルターを使ってマニュアルホワイトバランス用の画像の撮影と設定を行い、ホワイトバランスを〈☞〉に設定して撮影してください。
- カラーフィルターを装着し、広角レンズを使用してストロボ撮影を行ったときは、周辺光量が低下することがあります。
- カラーフィルターが汚れたり、ゴミが付着したときは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- カラーフィルター使用時にバウンスアダプター (p.36) を取り付けることもできます。
- 白熱電球照明の (やや赤みがあった) 雰囲気を出したいときは、アンバー側にホワイトバランス補正を行ってください。


ストロボ設定初期化 応用

ストロボの撮影機能やワイヤレス撮影の設定を、初期状態に戻すことができます。



設定を初期化する

- **<Cleared>** が表示されるまで、ファンクションボタン2と3を同時に長く押しします。
- ➔ ストロボの設定が初期化され、通常撮影、発光モードが **<ETTL>** になります。

 設定初期化を行っても、ワイヤレス撮影時の通信チャンネルと電波通信ID、カスタム機能 (C.Fn)、パーソナル機能 (P.Fn) の設定は解除されません。

3

カメラ操作による ストロボの機能設定

この章では、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定する方法について説明しています。



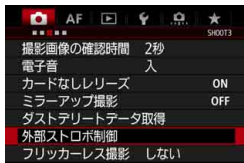
カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/bulb(B)**〉(応用撮影ゾーン)にしてください。

カメラのメニュー画面からのストロボ制御

2007年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。

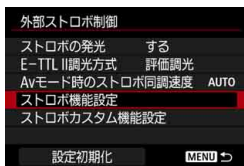
カメラの操作方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定



1 [外部ストロボ制御] を選ぶ

- [外部ストロボ制御] または [ストロボ制御] を選びます。



2 [ストロボ機能設定] を選ぶ

- [ストロボ機能設定] または [外部ストロボ機能設定] を選びます。
- ➔ 設定画面が表示されます。

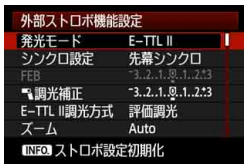
3 機能を設定する

- カメラにより設定画面や表示される項目が異なります。
- 項目を選び、機能を設定します。

表示例1



表示例2



ストロボ機能設定画面で設定できる内容

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

カメラの「ストロボ機能設定」または「外部ストロボ機能設定」の画面で「通常撮影」「電波通信ワイヤレス撮影」「光通信ワイヤレス撮影」の設定を行うことができます。

* EOS Kiss X80/X70は2012年以降の発売ですが、設定できる内容は下記の「2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ」と同じです。

● 2007年～2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ

EOS-1Ds Mark III、EOS-1D Mark IV/III、EOS 5D Mark II、EOS 7D/60D/50D/40D、EOS Kiss X5/X4/X3/X2/X50/F

「ストロボ機能設定」または「外部ストロボ機能設定」の画面で、「通常撮影」「光通信ワイヤレス撮影」の設定を行うことができます。「電波通信ワイヤレス撮影」を行うときは、ストロボを操作して設定してください。

設定できる主な機能は次のとおりです。使用するカメラや発光モード、ワイヤレス機能の設定などにより、設定できる内容が異なります。

機能	
ストロボの発光	する／しない
E-TTL II調光方式	評価調光／平均調光
Avモード時のストロボ同調速度	
発光モード	E-TTL II（自動調光）／マニュアル発光／マルチ発光／外部調光オート／外部調光マニュアル
シンクロ設定	先幕シンクロ／後幕シンクロ／ハイスピードシンクロ
調光補正	
FEB	
ズーム（照射角）	
ワイヤレス機能	ワイヤレス：OFF／電波通信／光通信
設定初期化	

● ストロボの発光

ストロボ撮影を行うときは、[する] に設定します。ストロボのAF補助光だけを利用するときは、[しない] に設定します。

● E-TTL II調光方式

通常は標準的なストロボ露出が得られる[評価調光] に設定します。[平均調光] に設定すると、カメラの測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

● Avモード時のストロボ同調速度

〈Av〉絞り優先AEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調シャッター速度を設定することができます。

● 発光モード

撮影目的に応じて[E-TTL II] [マニュアル発光] [マルチ発光] [外部調光オート] [外部調光マニュアル]の中から、発光モードを選ぶことができます。

● シンクロ設定

ストロボの発光タイミング/発光方式を[先幕シンクロ] [後幕シンクロ] [ハイスピードシンクロ]の中から選ぶことができます。通常のストロボ撮影を行うときは、[先幕シンクロ] に設定します。

● 調光補正

露出補正と同じ感覚で、ストロボの発光量を調整することができます。設定できる補正量は1/3段ステップ±3段です。

● FEB

ストロボの光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。設定できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。

● ズーム（照射角）

ストロボの照射角を設定することができます。[オート] を選ぶと、撮影レンズの焦点距離、カメラの画面サイズ (p.26) に応じて照射角が自動設定されます。

● ワイヤレス機能

電波通信ワイヤレスストロボ撮影、光通信ワイヤレスストロボ撮影の設定を行うことができます。詳しくは、4章 (p.57)、5章 (p.89) を参照してください。

● 設定初期化

[ストロボ機能設定初期化] または [外部ストロボ設定初期化] を選ぶと、ストロボの設定内容を初期状態に戻すことができます。



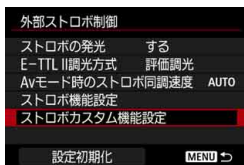
- ストロボのカスタム機能C.Fn-05を [1:TTL] に設定すると (p.114)、[発光モード] 設定時に [TTL] が選択できるようになりますが、EOS デジタルカメラで自動調光撮影を行うときは、C.Fn-05を [0:E-TTL II/E-TTL] に設定してください。
- バウンスアダプター装着時、ワイドパネル使用時など、照射角が自動設定される場合は、[ズーム] (照射角) の設定はできません。



- [ストロボの発光] [E-TTL II調光方式] は、52ページの手順2または手順3で表示されます (カメラにより異なります)。
- [Av モード時のストロボ同調速度] が表示されないときは、カメラのカスタム機能で設定することができます。
- ストロボ側で調光補正を行ったときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されません。

ストロボカスタム機能設定

カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定することができます。なお、表示される内容は使用するカメラによって異なります。C.Fn-20～23が表示されないときは、ストロボを操作して設定してください。カスタム機能については、113～117ページを参照してください。



1 [ストロボカスタム機能設定] を選ぶ

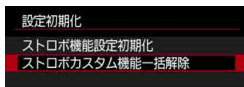
- [ストロボカスタム機能設定] または [外部ストロボカスタム機能設定] を選びます。
- ➔ ストロボのカスタム機能設定画面が表示されます。

カスタム機能番号

2 カスタム機能を設定する



- カスタム機能番号を選び、機能を設定します。



- カスタム機能の設定をすべて解除するときは、手順1で ([設定初期化] を選び) [ストロボカスタム機能一括解除] または [外部ストロボカスタム機能一括解除] を選びます。

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70では、[ストロボカスタム機能一括解除] または [外部ストロボカスタム機能一括解除] を選んでも、C.Fn-20～23の設定は解除されません。112ページのカスタム機能一括解除を行うと、すべてのカスタム機能が解除されます (C.Fn-00を除く)。
- 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラと組み合わせたときは、ストロボの〈MODE〉ボタンで外部調光オート、外部調光マニュアルを直接選択できるため、C.Fn-05-2、3は選択できません (EOS Kiss X80/X70を除く)。
- パーソナル機能 (P.Fn/p.118) は、カメラのメニュー画面から設定/一括解除することはできません。ストロボを操作して設定してください。


4


電波通信 ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「電波通信」ワイヤレスマスター／スレーブ機能を使用したストロボ撮影方法について説明しています。

電波通信ワイヤレス撮影に必要なアクセサリについては、システム図を参照してください (p.122)。

使用可能な地域と制限事項、および電波通信に関する注意事項については、139ページを参照してください。

 カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈P/Tv/Av/M/bulb(B)〉(応用撮影ゾーン) にしてください。

-  ● マスターストロボとスレーブストロボにそれぞれ600EX II-RTを使って説明しています。
- カメラに取り付けた600EX II-RTを「マスター」、ワイヤレス制御される600EX II-RTを「スレーブ」と呼んでいます。

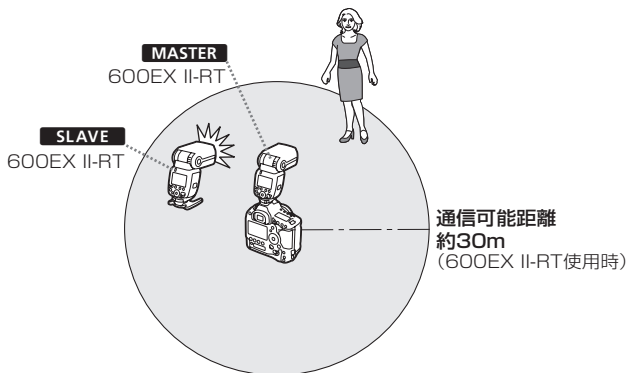
④ 電波通信ワイヤレスストロボ撮影

電波通信ワイヤレス撮影機能を備えたキヤノン製スピードライト（マスター/スレーブ）を使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

カメラに取り付けた600EX II-RT（マスター）の設定内容が、ワイヤレス制御される600EX II-RT（スレーブ）側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にスレーブを操作する必要はありません。

配置と作動範囲（ワイヤレスストロボ撮影例）

● スレーブを1灯使った自動調光撮影（p.68）



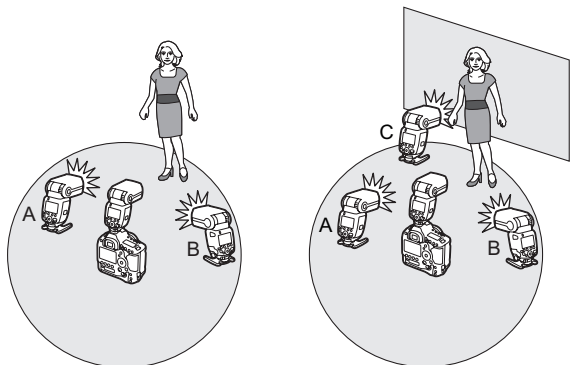
- スレーブに設定した600EX II-RTを、電波通信ワイヤレスマスター機能を備えた600EX II-RT以外の他の機器でワイヤレス制御することもできます。そのときのマスター機能の設定方法については、その機器の使用説明書を参照してください。
- 付属のミニスタンド（p.16）を使用してスレーブを配置します。

ワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループ、または3グループに分けて、光量比（発光量の割合）を変えながら、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

また、最大5グループまでの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して撮影することもできます（p.60）。

● スレーブをグループに分けた自動調光撮影

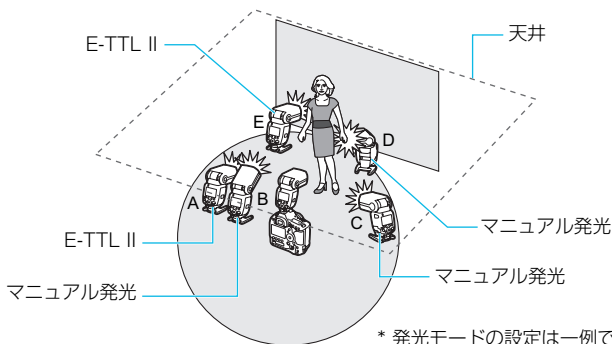


2 (A, B) グループ (p.73)

3 (A, B, C) グループ (p.75)

- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがあります。
- 撮影を行う前にテスト発光（p.21）やテスト撮影を行ってください。

●グループごとに発光モードを設定した撮影 (p.79)



電波通信と光通信の違いについて

電波通信によるワイヤレス撮影は、光通信によるワイヤレス撮影に比べて、障害物の影響を受けにくく、スレーブのワイヤレス受信部をマスターに向ける必要がないなどの利点があります。なお、機能面での主な違いは次のとおりです。

機能		電波通信	光通信
通信可能距離		約30m	約15m (屋内)
発光グループ制御		最大5グループ*1 (A, B, C, D, E)	最大3グループ (A, B, C)
スレーブ制御		最大15台	無制限
通信チャンネル		オート、Ch.1~15	Ch.1~4
電波通信ID		0000~9999	—
スレーブ操作	テスト発光	○	—
	モデリング発光	○*2	—
	リリース	○*3	—

*1~3：使用するカメラにより制限事項があります。

(*1：p.61、79/*2：p.82/*3：p.83を参照してください)

使用カメラによる機能制限について

電波通信ワイヤレスストロボ撮影では、使用するカメラにより、機能が制限されることがあります。

● 2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ

2012年以降に発売されたEOS デジタルカメラと組み合わせたときは、発光モードやストロボ同調速度などの制限はありません。

* EOS Kiss X80/X70は2012年以降の発売ですが、機能制限の内容は2011年までに発売されたEOSデジタルカメラと同じです（下記参照）。

● 2011年までに発売されたE-TTL対応EOSカメラ

下記のカメラと組み合わせたときは、電波通信ワイヤレスによるE-TTL自動調光撮影はできません。 マニュアル発光（p.77）、マルチ発光（p.42）、または光通信ワイヤレス撮影（p.89）を行ってください。

EOS-1Ds、EOS-1D、EOS-1V、EOS-3、EOS 55、EOS Kiss III L、EOS Kiss III、New EOS Kiss、EOS 3000N、EOS IX E、EOS IX 50

また、2011年までに発売されたEOSデジタルカメラ、EOSフィルムカメラと組み合わせたときは、以下の制限を受けます。

① ストロボ同調最高シャッター速度が1段遅くなります。

使用するカメラのストロボ同調最高シャッター速度（ $X=1/**$ 秒）を確認して、ストロボ同調最高シャッター速度から1段遅いシャッター速度を上限にして撮影を行ってください（例： $X=1/250$ 秒の場合、 $1/125\sim 30$ 秒の範囲で電波通信ワイヤレス撮影が可能）。

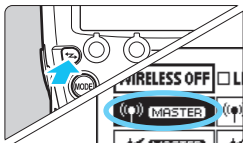
シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度から1段遅くすると、**TV**による警告表示が消えます。

- ②ハイスピードシンクロ撮影はできません。
- ③グループ発光 (p.79) はできません。
- ④スレーブからのモデリング発光 (p.82)、スレーブからのリモートリリース (p.83) はできません。
- ⑤連動撮影時に「スレーブカメラ」として使用できません (p.84)。
「マスターカメラ」としてのみ使用できます。

ワイヤレス設定

電波通信ワイヤレス撮影を行うときは、以下の操作でマスター、スレーブの設定を行います。

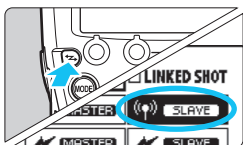
マスター設定



〈**MASTER**〉に設定する

- 〈**←**〉 ボタンを押します。
- 〈**MODE**〉 を回して 〈**MASTER**〉 を選び、〈**OK**〉 を押します。

スレーブ設定



〈**SLAVE**〉に設定する

- スレーブに設定するストロボを操作して設定します。
- マスター設定と同じ操作で 〈**SLAVE**〉 を選びます。

通常のスロボ撮影を行うときは、〈**WIRELESS OFF**〉を選んでワイヤレス（マスター／スレーブ）の設定を解除してください。

通信チャンネル／電波通信IDについて

他の人が使用している電波通信によるワイヤレスシステムや、電波（無線）を使用した他の機器と混信しないように、通信チャンネルと電波通信IDを切り換えることができます。チャンネルとIDは、マスター、スレーブとも同じ設定にします。

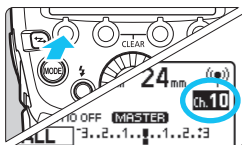
同じ場所に複数の電波通信ワイヤレスシステムを構築するときは、異なる通信チャンネルに設定していても混信することがあるため、チャンネルごとに異なる電波通信IDを設定してください（p.64）。

通信チャンネル／電波通信IDの設定

以下の操作で、マスターとスレーブの通信チャンネルと電波通信IDを設定します。チャンネルとIDは、マスターとスレーブで同じ設定にします。なお、操作方法はマスターとスレーブで共通です。

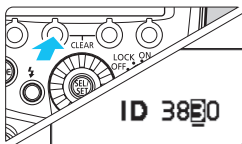
1 <MENU 3> の表示にする

- ファンクションボタン4を押して、<MENU 3> の表示にします。



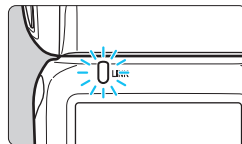
2 通信チャンネルを設定する

- ファンクションボタン1 <CH> を押します。
- <R> を回して「AUTO」または Ch.1～15の中から選び、<S> を押します。



3 電波通信IDを設定する

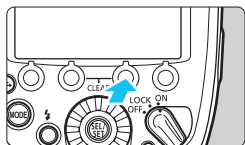
- ファンクションボタン2 <ID> を押します。
 - <R> を回して設定する位置（桁）を選び、<S> を押します。
 - <R> を回して0～9の番号を選び、<S> を押します。
 - 同じ操作で4桁の番号を設定します。
- マスターとスレーブの通信が確立すると、<LINK> ランプが「緑色」に点灯します。



● マスターの通信チャンネルをスキャンして設定する

電波状態をスキャンして、マスターの通信チャンネルを自動または手で設定することができます。チャンネルが「AUTO」に設定されているときは、自動的に電波状態の良いチャンネルに再設定されます。手動設定のときは、スキャン結果を参考にして再設定することができます。

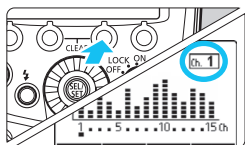
● 「AUTO」 設定状態からスキャン



スキャンする

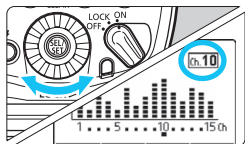
- ファンクションボタン4を押して、**<MENU 3>**の表示にします。
- ファンクションボタン3 **<SCAN>**を押します。
- ➔ スキャンが行われ、電波状態の良いチャンネルに再設定されます。

● Ch.1～15設定状態からスキャン



1 スキャンする

- ファンクションボタン4を押して、**<MENU 3>**の表示にします。
- ファンクションボタン3 **<SCAN>**を押します。
- ➔ スキャンが行われ、電波状態がグラフで表示されます。
- グラフの山が高いチャンネルほど、電波状態が良いことを表しています。



2 チャンネルを設定する

- **<SEL SET>**を回して、Ch.1～15の中から選びます。
- **<SEL SET>**を押すと、チャンネルが設定されます。

〈LINK〉ランプについて

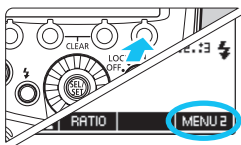
〈LINK〉ランプの色で通信状態を確認することができます。

色	状態	内容	対処方法
緑色	点灯	通信OK	—
赤色	点灯	未接続	チャンネル、IDを確認する
	点滅	台数超過	マスター+スレーブを16台以下にする
		エラー	マスター、スレーブの電源を入れ直す

- マスターとスレーブの通信チャンネルが異なると、スレーブは発光しません。ともに「AUTO」に設定するか、同じ番号に設定してください。
- マスターとスレーブの電波通信IDが異なると、スレーブは発光しません。同じ番号に設定してください。

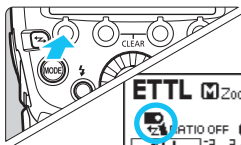
マスターストロボの発光ON/OFF

スレーブをコントロールするマスターを、ワイヤレスストロボとして発光させるかどうかを設定します。マスター発光ONのときは、発光グループAとして発光します。



1 〈MENU 2〉の表示にする

- ファンクションボタン4を押して、〈MENU 2〉の表示にします。



2 マスター発光を設定する

- ファンクションボタン1 〈M/R〉を押して、マスター発光ON/OFFを設定します。

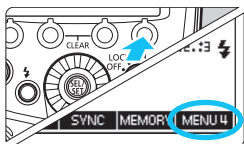
☞ : マスター発光ON

☞ : マスター発光OFF

マスター発光

メモリー機能

ワイヤレス設定した内容をマスター、スレーブに保存したり、呼び出すことができます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ（マスターまたはスレーブ）を個別に操作します。



1 <MEMORY> を表示させる

- マスターのときは、ファンクションボタン4を押して、<MENU 4> の表示にします。
- スレーブのときは、ファンクションボタン4を押して、<MENU 3> の表示にします。



2 設定内容を保存する／呼び出す

- ファンクションボタン3 <MEMORY> を押します。

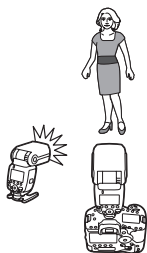
[保存]

- ファンクションボタン1 <SAVE> を押します。
- ➔ 設定内容が保存（記憶）されます。

[呼び出し]

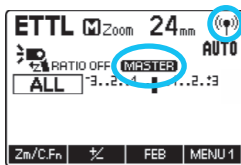
- ファンクションボタン2 <LOAD> を押します。
- ➔ 保存したときの設定内容になります。

ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影



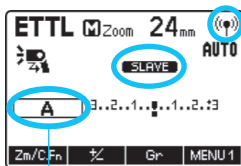
カメラに取り付けた600EX II-RT（マスター）と、スレーブに設定した600EX II-RTを使った、基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

スレーブを1灯使った自動調光撮影



1 マスターに設定する

- カメラに取り付けた600EX II-RTを「マスター」に設定します（p.63）。
- 電波通信ワイヤレスマスター機能を備えた機器をマスターとして使用することもできます。



発光グループ

2 スレーブに設定する

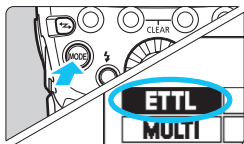
- マスターからワイヤレス制御する600EX II-RTを「スレーブ」に設定します（p.63）。
- 電波通信ワイヤレススレーブ機能を備えた、他のEXスピードライトを使用することもできます。
- 発光グループは、A、B、Cのいずれかに設定してください（p.73）。D、Eに設定すると発光しません。

3 チャンネルとIDを確認する

- マスターとスレーブの通信チャンネルと電波通信IDが異なるときは、同じ設定にします（p.64、65）。

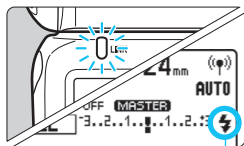
4 カメラとストロボを配置する

- 58ページに示した範囲内に配置します。



5 発光モードを〈ETTL〉にする

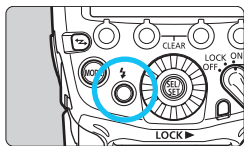
- マスターの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈ETTL〉を選び、〈〉を押します。
- スレーブはマスターからの制御により、撮影時に〈ETTL〉に自動設定されます。
- 発光グループ制御が〈〉に設定されていることを確認します。

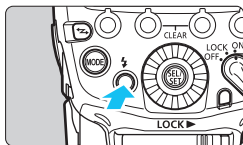


スレーブ充電完了

6 通信状態と充電を確認する

- 〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。
- スレーブの充電が完了すると、AF補助光の投光部が約1秒間隔で点滅します。
- マスターがC.Fn-20-1に設定されているときは (p.116)、すべてのストロボの充電が完了すると、マスターの電子音が鳴ります。
- マスターの表示パネルに、マスター/スレーブの充電完了を表す〈〉が点灯していること (〈CHARGE〉が表示されていないこと) を確認します。
- マスターの表示パネル照明については、71ページを参照してください。
- マスターの充電ランプが点灯していることを確認します。





7 作動を確認する

- マスターのテスト発光ボタンを押します。
- ➔ ストロボが発光します。発光しないときは、通信可能範囲内に配置されているか確認してください (p.58)。

8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。
- ➔ 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約3秒間点灯します。

🔗 〈LINK〉ランプが赤色のときは、電波通信ができていない状態です。マスターとスレーブの通信チャンネルと電波通信IDの設定を再度確認してください。同じ設定でつながらないときは、マスターとスレーブの電源を入れ直してください。

- マスター／スレーブの照射角は24mmに設定されます。照射角を手動設定することもできます。
- マスターも発光させるときは、前ページの手順5でマスター発光をONにします (p.66)。
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (p.47)。
- マスター設定時は、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、マスターのテスト発光ボタンを押すとスレーブの電源が入ります。ただし、カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。
- スレーブがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができます (C.Fn-10/p.115)。
- すべてのストロボ (マスター／スレーブ) の充電が完了したときに、電子音を鳴らすことができます (C.Fn-20/p.116)。
- スレーブの充電が完了したときに、AF補助光の投光部の点滅を禁止することができます (C.Fn-23/p.117)。

表示パネル照明について

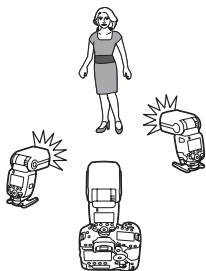
電波通信ワイヤレス撮影時は、マスターとスレーブ（発光グループ）の充電状態に応じて、マスターの表示パネル照明が点灯／消灯します。

マスターとスレーブの充電が完了していないときは、マスターの表示パネル照明が点灯します。マスターとスレーブの充電が完了すると、約12秒後に表示パネル照明が消灯します。

撮影を行いマスターやスレーブの充電が切れると、マスターの表示パネル照明が再点灯します。

❶ 充電が完了していないマスターやスレーブ（発光グループ）があるときは、マスターの表示パネルに〈**CHARGE**〉が表示されます。表示パネルに〈**CHARGE**〉が表示されていないことを確認するか、表示パネル照明が消灯していることを確認してから撮影してください。

複数のスレーブを使った自動調光撮影



より大きな光量が必要なときや、手軽にライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やして、1つのストロボとして発光させることができます。


スレーブを追加して、『スレーブを1灯使った自動調光撮影』（p.68）と同じ手順で撮影します。発光グループは、A、B、Cのいずれかに設定してください（p.73）。D、Eに設定すると発光しません。

スレーブの台数を増やしたときや、マスター発光ONのときは、すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

全自動ワイヤレスの応用撮影

本ワイヤレスシステムでは、マスターで設定した以下の機能がスレーブに自動設定されるため、スレーブを操作する必要はありません。そのため、通常のストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

- ・ストロボ調光補正 (🔧 / p.28)
- ・ハイスピードシンクロ (🔧 / p.31)
- ・FEB (🔧 / p.29)
- ・マニュアル発光 (p.40、77)
- ・FE ロック (p.30)
- ・マルチ発光 (p.42)


 スレーブを直接操作して、スレーブごとに調光補正、照射角の設定を行うこともできます。

マスターストロボについて

マスターを2台以上にすることができます。マスターを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング（スレーブ）のまま、カメラを替えてワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

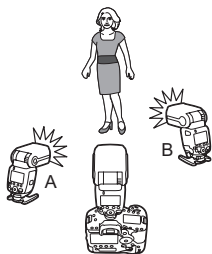
なお、マスターを2台以上にしたときは、マスター設定を行った順に〈LINK〉ランプの色が変わります。マスター1台目（メインマスター）は「緑色」、マスター2台目以降（サブマスター）は「オレンジ色」に点灯します。

- 〈LINK〉ランプが赤色のときは未接続状態です。通信チャンネル、電波通信IDを確認してから、マスターの電源を1台ずつ入れ直してください。
- 電波通信ワイヤレス撮影時は、マスターとスレーブを合わせて16台以下にしてください。

 マスターストロボがサブマスターの状態でも撮影することができます。

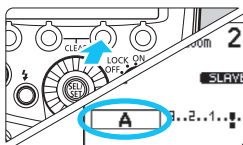
A:B: 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループに分けた自動調光撮影



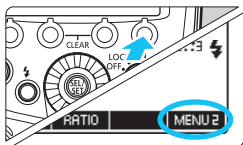
スレーブをAとBの2つの発光グループに分け、ライティングバランス（光量比）を調整して撮影することができます。

露出は、発光グループA、Bの光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。



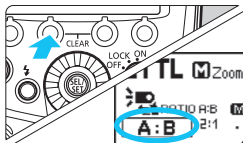
1 スレーブの発光グループを設定する

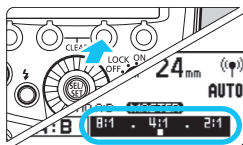
- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- ファンクションボタン4を押して、**<MENU 1>**の表示にします。
- ファンクションボタン3 **<Gr>** を押して、**<A>** または **** を選びます。
- 1台を **<A>**、もう1台を **** に設定します。





2 マスターを **<A:B>** に設定する

- 手順2、3はマスターを操作して設定します。
- マスターのファンクションボタン4を押して、**<MENU 2>**の表示にします。
- ファンクションボタン2 **<RATIO>** を押して **<A:B>** に設定します。





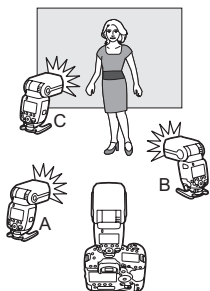
3 A : Bの光量比を設定する

- ファンクションボタン3 < Gr > を押します。
- <  > を回して光量比を設定し、<  > を押します。

4 撮影する

- 設定した光量比で、スレーブが発光します。

スレーブを3グループに分けた自動調光撮影

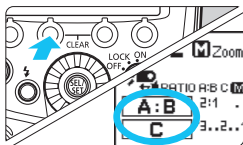


発光グループA、Bに、発光グループCを追加することができます。Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときなどに有効です。

基本的な設定方法は、『スレーブを2グループに分けた自動調光撮影』（p.73）と同じです。

1 スレーブを発光グループCに設定する

- 追加するスレーブを、73ページの手順1と同じ操作で発光グループ〈C〉に設定します。



2 マスターを〈A:B〉〈C〉に設定する

- 73ページの手順2と同じ操作で、マスターの発光グループ制御を〈A:B〉〈C〉に設定します。

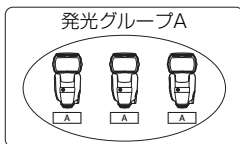
3 A : Bの光量比を設定する

- 前ページの手順3と同じ操作でA : Bの光量比を設定します。

4 スレーブCの調光補正量を設定する

- 必要に応じて設定します。
- ファンクションボタン3 <Gr> を押します。
- <☉> を回して <C> を選びます。
- ファンクションボタン3 <C%> を押します。
- <☉> を回して補正量を設定し、<☉> を押します。

グループ制御について



より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やすことができます。追加するスレーブを、光量を大きくしたい発光グループ (A, B, Cのいずれか) に設定するだけです。スレーブは最大15台まで増やすことができます。

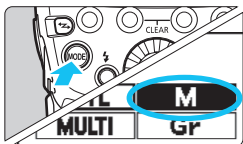
例えば、3台のスレーブの発光グループを <A> に設定したときは、3台を発光量の大きい1灯のAグループストロボとみなして制御します。

- 発光グループA, B, Cの3グループで発光させるときは、<A:B> <C> に設定してください。<A:B> の設定では発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。

光量比の8:1~1:1~1:8は、段数換算で3:1~1:1~1:3 (1/2段ステップ) に相当します。

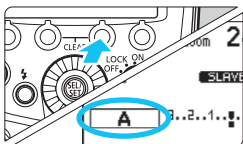
M: 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

マニュアル発光によるワイヤレス（多灯）撮影です。スレーブ（発光グループ）ごとに発光量を任意に設定して撮影することができます。



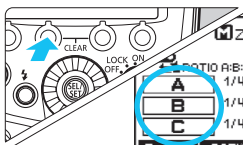
1 発光モードを〈M〉にする

- マスターの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈M〉を選び、〈〉を押します。
- スレーブはマスターからの制御により、撮影時に〈M〉に自動設定されます。



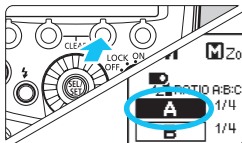
2 スレーブの発光グループを設定する

- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- 手順3で発光させるグループに合わせて設定します。
- ファンクションボタン4を押して、〈MENU 1〉の表示にします。
- ファンクションボタン3 〈Gr〉を押して、〈A〉〈B〉〈C〉のいずれかを選びます。



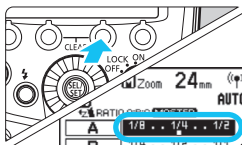
3 発光グループ制御を設定する

- マスターのファンクションボタン4を押して、〈MENU 1〉の表示にします。
- ファンクションボタン2 〈RATIO〉を押して、発光させるグループを設定します。
- 押すたびに、〈ALL〉→〈A〉〈B〉→〈A〉〈B〉〈C〉の順に切り換わります。



4 発光グループを選ぶ

- ファンクションボタン3 < Gr > を押します。
- < ④ > を回して発光量を設定するグループを選びます。



5 発光量を設定する

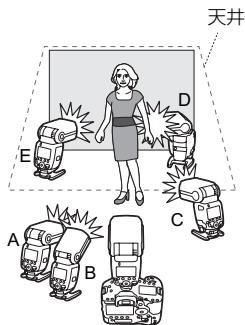
- ファンクションボタン3 < *% > を押します。
- < ④ > を回して発光量を設定し、< ⑤ > を押します。
- < A > < B > または < A > < B > < C > のときは、手順4、5を繰り返して、すべての発光グループの発光量を設定します。

6 撮影する

- ➔ 設定した発光量で、各グループが発光します。

- < ALL > 設定時は、スレーブの発光グループをA, B, Cのいずれかに設定してください。D, Eに設定すると発光しません。
- 複数のスレーブを同じ発光量で発光させるときは、手順3で < ALL > を選びます。

Gr: グループごとに発光モードを設定した撮影

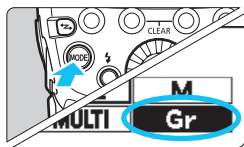


2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、最大5グループ (A, B, C, D, E) までの範囲で、発光グループごとに発光モードを設定して撮影することができます。

設定できる発光モードは、①E-TTL II/E-TTL自動調光、②マニュアル発光、③外部調光オートです。発光モードが①③のときは、1つのグループで主被写体が標準露出になるように露出制御されます。

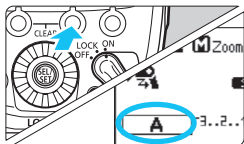
この機能は、ライティングに対する知識と経験が豊富な上級者向けの機能です。

2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70では、〈Gr〉の発光モードでワイヤレスストロボ撮影を行うことはできません。最大3グループ (A, B, C) での撮影になります (p.75)。



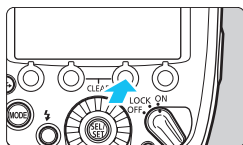
1 発光モードを〈Gr〉にする

- マスターの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈Gr〉を選び、〈〉を押します。
- スレーブはマスターからの制御により、撮影時に発光モードが自動設定されます。



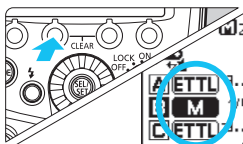
2 スレーブの発光グループを設定する

- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- ファンクションボタン4を押して、〈MENU1〉の表示にします。
- ファンクションボタン3 〈Gr〉を押して、〈A〉〈B〉〈C〉〈D〉〈E〉のいずれかを選びます。
- すべてのスレーブに発光グループ (A, B, C, D, E) を設定します。



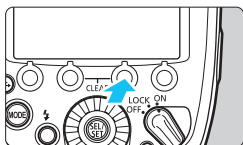
3 各発光グループの設定を行う

- マスターを操作して、各発光グループの発光モードを設定します。
- <MENU 1> が表示された状態で、ファンクションボタン3 <Gr> を押します (p.12)。
- <SEL SET> を回して発光グループを選びます。



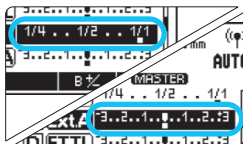
発光モードの設定

- ファンクションボタン2 <*MODE> を押して、<ETTL> <M> <Ext.A> の中から発光モードを選びます。



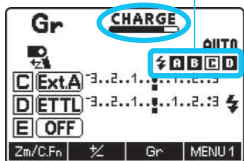
発光量／調光補正量の設定

- ファンクションボタン3 <*%> を押します。
- <SEL SET> を回して発光量または調光補正量を設定し、<SEL SET> を押します。
- <M> のときは発光量を設定します。<ETTL> <Ext.A> のときは、必要に応じて調光補正量を設定します。
- 手順3を繰り返して、すべての発光グループの発光機能を設定します。
- <MENU 1> が表示された状態で、ファンクションボタン2 <%> を押すと、発光グループ全体の調光補正を行うことができます。



発光グループ充電状態

□: 充電未完了 ■: 充電完了



4 充電を確認して撮影する

- 〈CHARGE〉が表示されているときは、左図の表示で充電が完了していない発光グループを確認することができます。例えば発光グループ〈A〉の充電が完了したときは、左図の〈A〉の表示が〈A〉に変わります。
- すべての発光グループの充電が完了すると、〈CHARGE〉と左図の発光グループの充電状態の表示が消えます。
- その他の充電確認については、69 ページの手順6を参照してください。
- ➔ 各スレーブが設定したそれぞれの発光モードで同時に発光します。



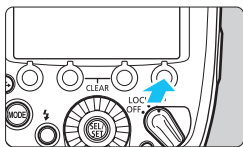
- 発光モードを〈Ext.A〉に設定するときは、スレーブが外部調光オートに対応しているストロボかどうかを確認してください。対応していないときは発光しません。
- 発光モードが〈ETTL〉〈Ext.A〉のときは、1つの発光グループで主被写体が標準露出になるように露出制御されるため、複数の発光グループを主被写体に向けて発光させると、露出オーバーになることがあります。



- 発光させるグループは、A, C, Eのように連続してなくても構いません。
- 発光させたくないグループがあるときは、手順3で発光モードを設定するときに、ファンクションボタン1 〈ON/OFF〉を押して、〈OFF〉に設定します。

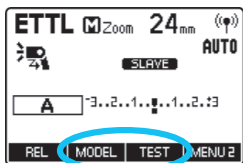
スレーブからのテスト発光／モデリング発光

電波通信ワイヤレス撮影時に、スレーブに設定されている600EX II-RTからテスト発光、モデリング発光 (p.47) を行うことができます。



1 <MENU 2> を表示させる

- スレーブのファンクションボタン4を押して、<MENU 2> の表示にします。



2 発光させる

[テスト発光]

- スレーブのファンクションボタン3 <TEST> を押します。

[モデリング発光] (p.47)

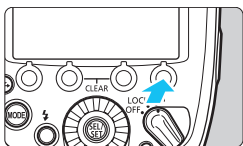
- スレーブのファンクションボタン2 <MODEL> を押します。
- ➔ スレーブからマスターに発光信号が送信され、ワイヤレスシステムのテスト発光、モデリング発光が行われます。

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70のときは、スレーブからのモデリング発光はできません。
- モデリング発光に関する注意事項については、47ページを参照してください。
- マスターがC.Fn-02-1に設定されているときは (p.113)、<MODEL> を選んでもモデリング発光は行われません。

マスターが2台以上のときは (p.72)、<LINK> ランプが「緑色」に点灯しているメインマスターに発光信号が送信されます。

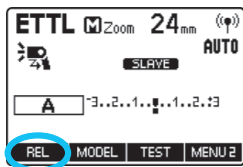
スレーブからのリモートリリース

2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラを使用すると、電波通信ワイヤレス撮影時に、スレーブに設定されている600EX II-RTからリモートリリース（リモコン撮影）を行うことができます。



1 <MENU 2> の表示にする

- スレーブのファンクションボタン4を押して、<MENU 2> の表示にします。



2 撮影する

- スレーブのファンクションボタン1 <REL> を押します。
- ➔ スレーブからマスターにリリース信号が送信され、撮影が行われます。

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70では、スレーブからのリモートリリースはできません。
- AFでピント合わせができないときは撮影は行われません。レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>にして、手動ピント合わせを行ってからリリースすることをおすすめします。

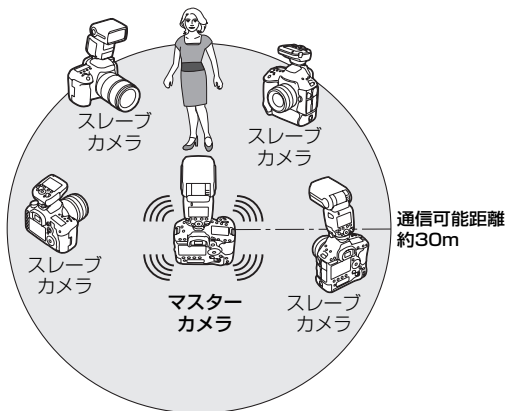
- カメラのドライブモードの設定に関わらず、「1枚撮影」でリモートリリースが行われます。
- マスターが2台以上のときは（p.72）、<LINK> ランプが「緑色」に点灯しているメインマスターにリリース信号が送信されます。


電波通信による連動撮影

2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ（EOS Kiss X80/X70を除く）を使用すると、マスターカメラのリリースに連動してスレーブカメラを自動リリースさせる「連動撮影」を行うことができます。マスターとスレーブを合わせて最大16台の連動撮影ができます。被写体を複数のアングルから一斉に撮影したいときに有効です。

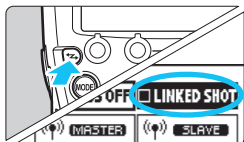
連動撮影を行うときは、電波通信ワイヤレス撮影に対応したストロボ、またはスピードライトトランスミッターをカメラに装着します。

なお、2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70と組み合わせたときは、「マスターカメラ」としてのみ使用できます。「スレーブカメラ」としては使用できません。



 連動撮影機能を設定した600EX II-RTとカメラの組み合わせを、それぞれ「マスターカメラ」「スレーブカメラ」と呼んでいます。

以下の操作を行う前に、連動撮影を行うすべてのストロボ、トランスミッターを各カメラに装着してください。なお、他の機器の設定方法については、その機器の使用説明書を参照してください。



1 通常撮影に設定する

- <⏪> ボタンを押します。
 - <⊙> を回して <LINKED SHOT> を選び、<⊙> を押します。
- <☑LINKED SHOT> の表示に変わります。



2 マスター／スレーブに設定する

- <⊙> を回して <MASTER> または <SLAVE> を選び、<⊙> を押します。



3 通信チャンネル、電波通信IDを設定する

- 通信チャンネルはファンクションボタン2 <CH>、電波通信IDはファンクションボタン3 <ID> を押して設定します。
- 設定方法については、63～66ページを参照してください。

4 カメラの撮影機能を設定する

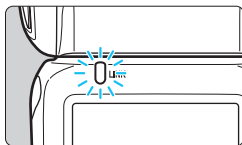
5 すべてのストロボを設定する

- 連動撮影を行うすべてのストロボを、連動撮影の「マスター」または「スレーブ」に設定します。

- 連動撮影を行うトランスミッターがあるときは、同じように設定します。
- 手順2の操作で「スレーブ」から「マスター」に変更すると、「マスター」に設定されていた他のストロボ（またはトランスミッター）が自動的に「スレーブ」になります。

6 スレーブカメラを設置する

- マスターカメラから約30mの範囲内にすべてのスレーブカメラを設置します。
- スレーブの〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認します。



7 撮影する

- マスターの〈LINK〉ランプが「緑色」に点灯していることを確認してから撮影します。
- ➔ マスターカメラのリリースに連動して、スレーブカメラがリリースします。
- ➔ 連動撮影が行われたスレーブは〈LINK〉ランプが一瞬「オレンジ色」に点灯します。

- 連動撮影を解除するときは、ストロボを1台ずつ操作して、手順1で〈LINKED SHOT〉の状態にします。
- ストロボをカメラに装着せずに、連動撮影用のリモコンとして使用することもできます。マスターのファンクションボタン1〈REL〉を押すと、すべてのスレーブカメラがリリースします。
- 連動撮影時は、オートパワーオフまでの時間がマスター、スレーブともに約5分になります。なお、連動撮影の間隔が5分以上のときは、マスターとスレーブの「オートパワーオフ」の設定を、ともに「OFF」に設定してください（C.Fn-01-1/p.113）。
- C.Fn-20-1に設定すると（p.116）充電が完了したストロボ（マスター/スレーブ）ごとに電子音が鳴ります。

- スレーブカメラに装着されているレンズのフォーカスモードスイッチを(MF)にして、手動ピント合わせで撮影することをおすすめします。AFでピント合わせができないときは、そのスレーブカメラは連動しません。
- マスターカメラのリリースタイミングよりも、少し遅れてスレーブカメラがリリースします。まったく同時に撮影することはできません。
- P.Fn-06-1に設定すると (p.119)、連動撮影時にストロボを発光させることができますが、連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。
- [外部ストロボ制御] または [ストロボ制御] の [ストロボの発光] が [しない] に設定されているときは (p.54)、連動撮影はできません。
- P.Fn-06-0設定時に (p.119)、ライブビュー映像を表示した状態で連動撮影ができないときは、マスターカメラのメニューの [LVソフト撮影] または [LV静音撮影] を [しない] に設定してください。カメラの機種によっては、[モード1] [モード2] に設定されていると、スレーブカメラが連動しないことがあります。
- ストロボの配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがあります。
- 連動撮影機能は、ワイヤレスファイルトランスミッターWFTシリーズの連動撮影と同等の機能です。ただし、WFTシリーズと組み合わせて連動撮影を行うことはできません。また、リリースタイムラグは、WFTシリーズによる連動撮影とは異なります。

● ライブビュー機能を使用した連動撮影について

P.Fn-06-0の設定で (p.119)、以下のカメラと組み合わせ、マスターカメラに設定したときは、ライブビュー状態での連動撮影はできません。

ライブビュー撮影を終了してファインダー撮影状態で連動撮影を行うか、P.Fn-06-1の設定で連動撮影を行ってください。


EOS 8000D、EOS Kiss X8i、EOS Kiss X7i、EOS Kiss X6i、EOS Kiss X5、EOS Kiss X4、EOS Kiss X3、EOS Kiss X2、EOS Kiss F


5

光通信 ワイヤレスストロボ撮影

この章では、「光通信」ワイヤレスマスター／スレーブ機能を使用したストロボ撮影方法について説明しています。

光通信ワイヤレス撮影に必要なアクセサリについては、システム図を参照してください (p.122)。

 カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンの場合は、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv / Av / M / bulb(B)**〉(応用撮影ゾーン) にしてください。

-  ● マスターストロボとスレーブストロボにそれぞれ600EX II-RTを使って説明しています。
- カメラに取り付けた600EX II-RTを「マスター」、ワイヤレス制御される600EX II-RTを「スレーブ」と呼んでいます。

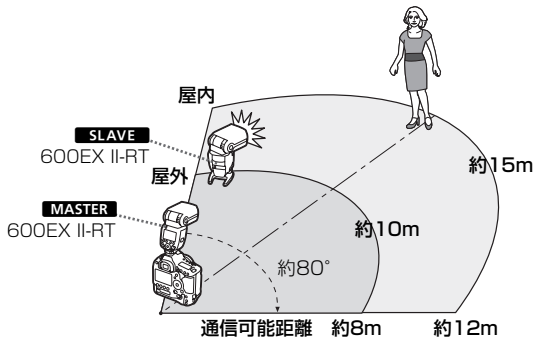
光通信ワイヤレスストロボ撮影

光通信ワイヤレス撮影機能を備えたキャノン製スピードライト(マスター/スレーブ)を使用すると、通常のE-TTL II/E-TTL自動調光ストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレス多灯ライティング撮影を簡単に行うことができます。

カメラに取り付けた600EX II-RT (マスター) の設定内容が、ワイヤレス制御される600EX II-RT (スレーブ) 側に自動設定される仕組みになっています。そのため、撮影中にスレーブを操作する必要はありません。

配置と作動範囲 (ワイヤレスストロボ撮影例)

● スレーブを1灯使った自動調光撮影 (p.96)

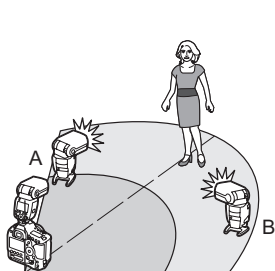


- スレーブのワイヤレス受信部をマスターに向けた状態で配置してください。
- スレーブに設定した600EX II-RTを、光通信ワイヤレスマスター機能を備えた600EX II-RT以外の他の機器でワイヤレス制御することもできます。そのときのマスター機能の設定方法については、その機器の使用説明書を参照してください。
- 付属のミニスタンド (p.16) を使用してスレーブを配置します。

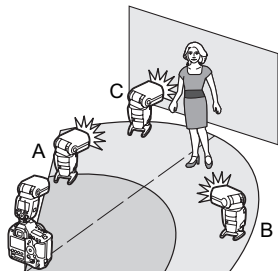
ワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループ、または3グループに分けて、光量比（発光量の割合）を変えながら、E-TTL II/E-TTL自動調光撮影を行うことができます。

● スレーブをグループに分けた自動調光撮影



2 (A, B) グループ (p.101)



3 (A, B, C) グループ (p.103)

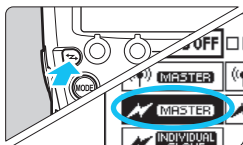


- 通信の妨げになるため、マスターとスレーブの間に障害物を置かないください。
- 通信可能距離は使用するマスターにより異なります。マスター機能を備えた機器の使用説明書を参照してください。
- 撮影を行う前にテスト発光 (p.21) やテスト撮影を行ってください。

ワイヤレス設定

光通信ワイヤレス撮影を行うときは、以下の手順でマスター、スレーブの設定を行います。

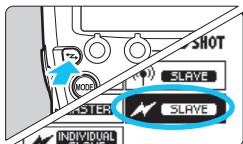
マスター設定



〈⚡ MASTER〉に設定する

- 〈↔〉 ボタンを押します。
- 〈⊙〉 を回して 〈⚡ MASTER〉 を選び、〈⊙〉 を押します。

スレーブ設定



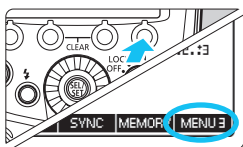
〈⚡ SLAVE〉に設定する

- スレーブに設定するストロボを操作して設定します。
- マスター設定と同じ操作で 〈⚡ SLAVE〉 を選びます。

⚠ 通常のスTROボ撮影を行うときは、〈WIRELESS OFF〉を選んでワイヤレス（マスター／スレーブ）の設定を解除してください。

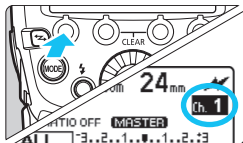
通信チャンネルの設定

他の人が使用している光通信によるワイヤレスシステムと混信しないように、通信チャンネルを切り換えることができます。チャンネルは、マスター、スレーブとも同じ番号に設定します。



1 <CH 1> を表示させる

- マスターのときは、ファンクションボタン4を押して、<MENU 3>の表示にします。
- スレーブのときは、ファンクションボタン4を押して、<MENU 2>の表示にします。



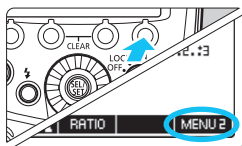
2 通信チャンネルを設定する

- ファンクションボタン1 <CH 1> を押します。
- <⊙> を回してCh.1~4の中から選び、<⊙> を押します。

❗ マスターとスレーブの通信チャンネルが異なると、スレーブは発光しません。ともに同じ番号に設定してください。

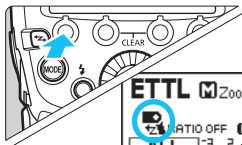
マスターストロボの発光ON/OFF

スレーブをコントロールするマスターを、ストロボとして発光させるかどうかを設定します。マスター発光ONのときは、発光グループAとして発光します。




1 <MENU 2> の表示にする


- ファンクションボタン4を押して、<MENU 2> の表示にします。




2 マスター発光を設定する

- ファンクションボタン1 <Fn/R/R> を押して、マスター発光ON/OFFを設定します。

 : マスター発光ON

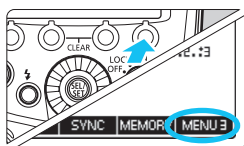
 : マスター発光OFF

マスター発光

 マスター発光をOFFにしても、スレーブを制御するための発光（光通信）が行われます。そのため撮影条件により、スレーブを制御するための発光が写り込むことがあります。

メモリー機能

ワイヤレス設定した内容をマスター、スレーブに保存したり、呼び出すことができます。設定内容の保存、呼び出しを行いたいストロボ（マスターまたはスレーブ）を個別に操作します。



1 <MEMORY> を表示させる

- マスターのときは、ファンクションボタン4を押して、<MENU 3> の表示にします。
- スレーブのときは、ファンクションボタン4を押して、<MENU 2> の表示にします。



2 設定内容を保存する／呼び出す

- ファンクションボタン3 <MEMORY> を押します。

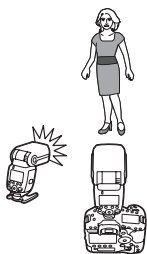
【保存】

- ファンクションボタン1 <SAVE> を押します。
- ➔ 設定内容が保存（記憶）されます。

【呼び出し】

- ファンクションボタン2 <LOAD> を押します。
- ➔ 保存したときの設定内容になります。

ETTL: 全自動ワイヤレスストロボ撮影



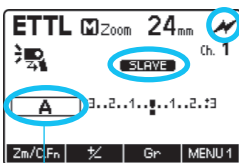
カメラに取り付けた600EX II-RT (マスター) と、スレーブに設定した600EX II-RTを使った、基本的な全自動ワイヤレス撮影について説明します。

スレーブを1灯使った自動調光撮影



1 マスターに設定する

- カメラに取り付けた600EX II-RTを「マスター」に設定します (p.92)。
- 光通信ワイヤレスマスター機能を備えた機器をマスターとして使用することもできます。



2 スレーブに設定する

- マスターからワイヤレス制御する600EX II-RTを「スレーブ」に設定します (p.92)。
- 光通信ワイヤレススレーブ機能を備えた、他のEXスピードライトを使用することもできます。
- 発光グループは、A, B, Cのどれでも構いません。

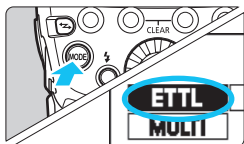
発光グループ

3 チャンネルを確認する

- マスターとスレーブの通信チャンネルが異なるときは、同じ番号に設定します (p.93)。

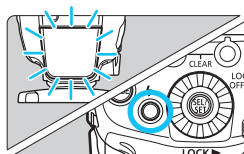
4 カメラとストロボを配置する

- 90ページに示した範囲内に配置します。



5 発光モードを〈ETTL〉にする

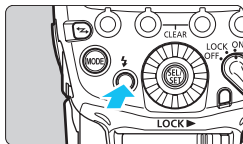
- マスターの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈ETTL〉を選び、〈〉を押します。
- スレーブはマスターからの制御により、撮影時に〈ETTL〉に自動設定されます。
- 発光グループ制御が〈ALL〉に設定されていることを確認します。



6 充電を確認する

- スレーブの充電が完了すると、AF補助光の投光部が約1秒間隔で点滅します。
- マスターの充電ランプが点灯していることを確認します。

- スレーブの近くに蛍光灯やパソコンのモニターなどがあると、光源の影響でスレーブが誤動作して、意図せず発光することがあります。
- 光通信ワイヤレス撮影時は、電波通信ワイヤレス撮影時のように、充電が完了していないマスターやスレーブ（発光グループ）があっても、マスターの表示パネルに〈CHARGE〉は表示されません（マスター発光OFF時）。また、マスターとスレーブの充電状態に応じて、マスターの表示パネル照明が点灯／消灯する機能はありません。
- マスターがC.Fn-20-1に設定されているときは（p.116）、マスターの充電が完了すると電子音が鳴ります（電波通信ワイヤレス撮影時のように、すべてのストロボの充電が完了したことを示す電子音ではありません）。



7 作動を確認する

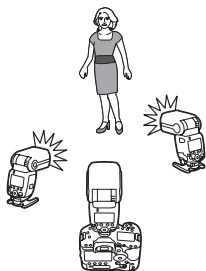
- マスターのテスト発光ボタンを押します。
- ストロボが発光します。発光しないときは、通信可能範囲内に配置されているか確認してください (p.90)。

8 撮影する

- 通常のストロボ撮影と同じように、カメラの設定を行ってから撮影します。
- 標準露出で撮影が行われたときは、調光確認ランプが約3秒間点灯します。

- マスター／スレーブの照射角は24mmに設定されます。照射角を手動設定することもできます。
- マスターも発光させるときは、手順5でマスター発光をONにします (p.94)。
- カメラの絞り込みボタンを押すと、モデリング発光を行うことができます (p.47)。
- スレーブがオートパワーオフ状態になったときは、マスターのテスト発光ボタンを押すとスレーブの電源が入ります。ただし、カメラ側で測光タイマーなどが作動しているときは、テスト発光できません。
- スレーブがオートパワーオフ状態になるまでの時間を変更することができます (C.Fn-10/p.115)。
- スレーブの充電が完了したときに、AF補助光の投光部の点滅を禁止することができます (C.Fn-23/p.117)。

複数のスレーブを使った自動調光撮影






より大きな光量が必要なときや、手軽にライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やして、1つのストロボとして発光させることができます。


スレーブを追加して、『スレーブを1灯使った自動調光撮影』（p.96）と同じ手順で撮影します。発光グループは、A, B, Cのどれでも構いません。


スレーブの台数を増やしたときや、マスター発光ONのときは、すべてのストロボが同じ光量で発光し、光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

全自動ワイヤレスの応用撮影

本ワイヤレスシステムでは、マスターで設定した以下の機能がスレーブに自動設定されるため、スレーブを操作する必要はありません。そのため、通常のストロボ撮影と同じ感覚で、ワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

- ・ ストロボ調光補正 ( / p.28)
- ・ FEB ( / p.29)
- ・ FE ロック (p.30)
- ・ ハイスピードシンクロ ( / p.31)
- ・ マニュアル発光 (p.40、105)
- ・ マルチ発光 (p.42)

 光通信ワイヤレス撮影時にマルチ発光を行うときは、発光周波数が1~199Hzになります (250~500Hz不可)。

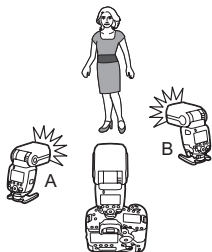
 スレーブを直接操作して、スレーブごとに調光補正、照射角の設定を行うこともできます。

マスターストロボについて

マスターを2台以上にすることができます。マスターを取り付けたカメラを複数台用意すると、同じライティング (スレーブ) のまま、カメラを替えてワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。

A:B: 光量比を設定したワイヤレス多灯撮影

スレーブを2グループに分けた自動調光撮影

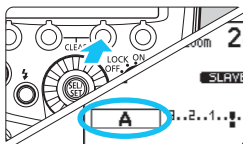


スレーブをAとBの2つの発光グループに分け、ライティングバランス（光量比）を調整して撮影することができます。

露出は、発光グループA、Bの光量の合計（和）が標準露出になるように自動制御されます。

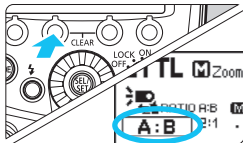
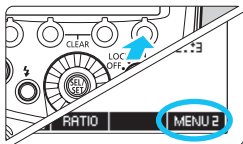
1 スレーブの発光グループを設定する

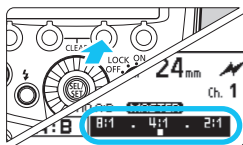
- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- ファンクションボタン4を押して、**<MENU 1>** の表示にします。
- ファンクションボタン3 **<Gr>** を押して、**<A>** または **** を選びます。
- 1台を **<A>**、もう1台を **** に設定します。





2 マスターを **<A:B>** に設定する

- 手順2、3はマスターを操作して設定します。
- マスターのファンクションボタン4を押して、**<MENU 2>** の表示にします。
- ファンクションボタン2 **<RATIO>** を押して、**<A:B>** に設定します。





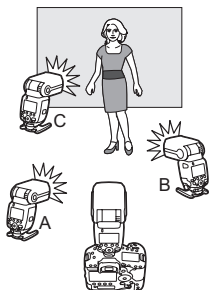
3 A : Bの光量比を設定する

- ファンクションボタン3 〈Gr〉 を押します。
- 〈〉 を回して光量比を設定し、〈〉 を押します。

4 撮影する

- 設定した光量比で、スレーブが発光します。

スレーブを3グループに分けた自動調光撮影

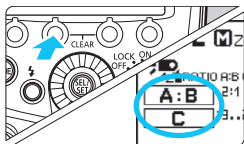


発光グループA、Bに、発光グループCを追加することができます。Cは、被写体の背景の影を消すライティングを行いたいときに有効です。

基本的な設定方法は、『スレーブを2グループに分けた自動調光撮影』(p.101)と同じです。

1 スレーブを発光グループCに設定する

- 追加するスレーブを、101 ページの手順1と同じ操作で発光グループ〈C〉に設定します。






2 マスターを〈A:B〉〈C〉に設定する

- 101ページの手順2と同じ操作で、マスターの発光グループ制御を〈A:B〉〈C〉に設定します。

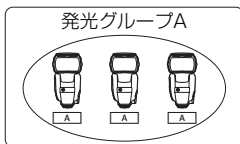
3 A : Bの光量比を設定する

- 前ページの手順3と同じ操作でA : Bの光量比を設定します。

4 スレーブCの調光補正量を設定する

- 必要に応じて設定します。
- ファンクションボタン3 < **Gr** > を押します。
- <  > を回して < **C** > を選びます。
- ファンクションボタン3 < **C%** > を押します。
- <  > を回して補正量を設定し、<  > を押します。


グループ制御について



より大きな光量が必要なときや、高度なライティングを行いたいときは、スレーブの台数を増やすことができます。追加するスレーブを、光量を大きくしたい発光グループ (A, B, Cのいずれか) に設定するだけです。台数に制限はありません。

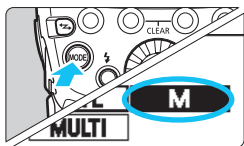
例えば、3台のスレーブの発光グループを < **A** > に設定したときは、3台を発光量の大きい1灯のAグループストロボとみなして制御します。

- 発光グループA, B, Cの3グループで発光させるときは、< **A:B** > < **C** > に設定してください。< **A:B** > の設定では発光グループCは発光しません。
- 発光グループCを直接主被写体に向けて撮影すると、露出オーバーになることがあります。
- E-TTL自動調光に対応した一部のEOSフィルムカメラ使用時は、光量比を設定したワイヤレス多灯撮影はできません。



 光量比の8:1~1:1~1:8は、段数換算で3:1~1:1~1:3 (1/2段ステップ) に相当します。

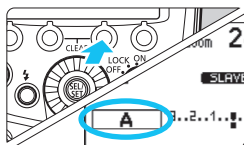
M: 発光量を設定したワイヤレス多灯撮影

マニュアル発光によるワイヤレス（多灯）撮影です。スレーブ（発光グループ）ごとに発光量を任意に設定して撮影することができます。



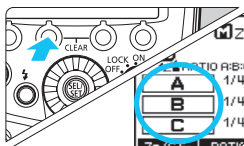
1 発光モードを〈M〉にする

- マスターの〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して〈**M**〉を選び、〈〉を押します。
- スレーブはマスターからの制御により、撮影時に〈M〉に自動設定されます。



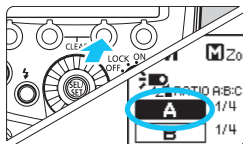
2 スレーブの発光グループを設定する

- スレーブを操作して1台ずつ設定します。
- 手順3で発光させるグループに合わせて設定します。
- ファンクションボタン4を押して、〈**MENU 1**〉の表示にします。
- ファンクションボタン3 〈**Gr**〉を押して、〈**A**〉 〈**B**〉 〈**C**〉のいずれかを選びます。



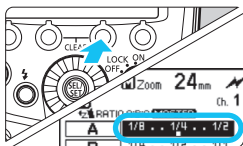
3 発光グループ制御を設定する

- マスターのファンクションボタン4を押して、〈**MENU 1**〉の表示にします。
- ファンクションボタン2 〈**RATIO**〉を押して、発光させるグループを設定します。
- 押すたびに、〈**ALL**〉 → 〈**A**〉 〈**B**〉 → 〈**A**〉 〈**B**〉 〈**C**〉の順に切り換わります。



4 発光グループを選ぶ

- ファンクションボタン3 <Gr> を押します。
- <⊙> を回して発光量を設定するグループを選びます。



5 発光量を設定する

- ファンクションボタン3 <*%> を押します。
- <⊙> を回して発光量を設定し、<⊙> を押します。
- <A> または <A><C> のときは、手順4、5を繰り返して、すべての発光グループの発光量を設定します。

6 撮影する

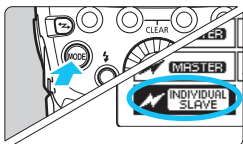
- ➔ 設定した発光量で、各グループが発光します。

- <ALL> 設定時は、スレーブの発光グループはA, B, Cのどれでも構いません。
- 複数のスレーブを同じ発光量で発光させるときは、手順3で <ALL> を選びます。

INDIVIDUAL SLAVE

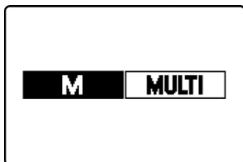
スレーブで設定するマニュアル発光/マルチ発光

スレーブを直接操作して、マニュアル発光、マルチ発光の手動設定を行うことができます。この機能を「単独スレーブ」といいます。スピードライトトランスミッター ST-E2 (別売) を使用して、ワイヤレスマニュアル発光、ワイヤレスマルチ発光を行うときなどに利用します。



1 単独スレーブに設定する

- <Z> ボタンを押します。
- <MODE> を回して <INDIVIDUAL SLAVE> を選び、<MODE> を押します。
- ➔ 表示パネルにく <INDIVIDUAL SLAVE> が表示されます。



2 発光モードを設定する

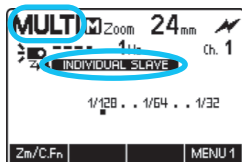
- <MODE> ボタンを押します。
- <MODE> を回して <M> または <MULTI> を選び、<MODE> を押します。

マニュアル発光



マニュアル発光量を設定します。設定方法については、40ページを参照してください。

マルチ発光



マルチ発光の設定を行います。設定方法については、42ページを参照してください。


光通信ワイヤレス撮影時にマルチ発光を行うときは、発光周波数が1～199Hzになります（250～500Hz不可）。

単独スレーブに設定したスレーブは、マスターから発光モードの制御は受けません。単独スレーブで設定した発光モードで発光します。

6

ストロボのカスタマイズ

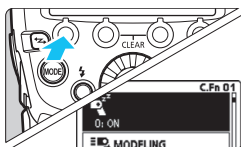
この章では、カスタム機能 (C.Fn)、パーソナル機能 (P.Fn) によるストロボのカスタマイズについて説明しています。

 カメラの撮影モードが全自動モード、かんたん撮影ゾーンのときは、この章の操作はできません。カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/bulb(B)**〉(応用撮影ゾーン) にしてください。

C.Fn / P.Fn: カスタム/パーソナル機能の設定方法

撮影スタイルに応じて、ストロボの機能を細かく変更することができます。この機能をカスタム機能、パーソナル機能といいます。なお、パーソナル機能は、600EX II-RT特有のカスタマイズ機能です。


C.Fn: カスタム機能

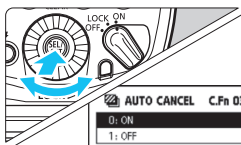


1 カスタム機能画面にする




- 画面が表示されるまで、ファンクションボタン1 < **Zm/C.Fn** > を長く押します。
- ➔ カスタム機能画面が表示されます。

2 設定する項目を選ぶ

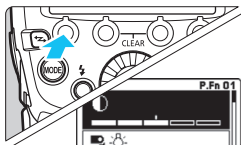
- <  > を回して設定する項目 (番号) を選びます。



3 設定内容を変更する

- <  > を押します。
- ➔ 設定項目が表示されます。
- <  > を回して希望する設定内容を選び、<  > を押します。

P.Fn: パーソナル機能



1 パーソナル機能画面にする

- カスタム機能の手順1の操作を行ったあと、ファンクションボタン1 < **P.Fn** > を押します。
- ➔ パーソナル機能画面が表示されます。


2 機能を設定する

- カスタム機能の手順2、3と同じ操作でパーソナル機能を設定します。

カスタム機能一覧

番号	項目		参照ページ
C.Fn-00	 m/ft	距離表示	p.113
C.Fn-01		オートパワーオフ	
C.Fn-02	 MODELING	モデリング発光	
C.Fn-03	 AUTO CANCEL	FEB自動解除	p.114
C.Fn-04		FEB撮影順序	
C.Fn-05	MODE	調光方式	
C.Fn-08	 AF	AF補助光の投光	p.115
C.Fn-10		スレープのオートパワーオフ時間	
C.Fn-11		スレープのオートパワーオフ解除	
C.Fn-12		外部電源使用時の充電	p.116
C.Fn-13		調光補正の設定方法	
C.Fn-20		電子音	
C.Fn-21		配光特性	p.117
C.Fn-22		表示パネルの照明	
C.Fn-23		スレープの充電確認	


パーソナル機能一覧


番号	項目		参照ページ
P.Fn-01		表示パネルの濃度	p.118
P.Fn-02		表示パネル照明色：通常撮影	
P.Fn-03		表示パネル照明色：マスター	
P.Fn-04		表示パネル照明色：スレーブ	
P.Fn-05	 QUICK	クイック発光	p.119
P.Fn-06	 LINKED SHOT	連動撮影時の発光	

カスタム機能／パーソナル機能一括解除

カスタム機能の画面で、ファンクションボタン2〈**CLEAR**〉を押して、ファンクションボタン1〈**OK**〉を押すと、設定されているカスタム機能を一括解除することができます。

また、パーソナル機能の画面で同じ操作を行うと、設定されているパーソナル機能を一括解除することができます。

 カスタム機能の一括解除を行っても、C.Fn-00は解除されません。

 カメラのメニュー画面からストロボのカスタム機能を設定／一括解除することができます (p.56)。

C.Fn: カスタム機能で変更できる内容

C.Fn-00: m/ft (距離表示)

表示パネルの距離表示を、メートル/フィートから選ぶことができます。

0 : m (メートル表示)

1 : ft (フィート表示)



調光可能な距離が18m/60ft.を超えると、表示パネルの調光連動範囲の右端が「▶」になります。

C.Fn-01: (オートパワーオフ)

ストロボを操作しないで約90秒放置すると、節電のため自動的に電源が切れますが、この機能が働かないようにすることができます。


0 : ON (入)

1 : OFF (切)




電波通信ワイヤレス撮影時のマスターストロボ (p.70)、連動撮影 (p.86) のときは、オートパワーオフまでの時間が約5分になります。

C.Fn-02: MODELING (モデリング発光)

0 :  (する : 絞り込みボタン)

カメラの絞り込みボタンを押すとモデリング発光します。

1 :  (する : テスト発光ボタン)

ストロボのテスト発光ボタンを押すとモデリング発光します。

2 :  (両方のボタンで発光する)

カメラの絞り込みボタン、またはストロボのテスト発光ボタンを押すと、モデリング発光します。

3 : OFF (しない)

モデリング発光を禁止します。

C.Fn-03: AUTO CANCEL (FEB自動解除)

FEBで3枚の撮影を行ったあと、FEBを自動解除するかどうかを設定することができます。

0: ON (する)

1: OFF (しない)

C.Fn-04: (FEB撮影順序)

FEBの撮影順序を変更することができます。0: 補正なし、-: マイナス補正 (暗く)、+: プラス補正 (明るく) の意味です。

0: 0→-→+

1: -→0→+

C.Fn-05: MODE (調光方式)


ストロボ撮影時の調光方式を設定することができます。


0: E-TTL II/E-TTL

1: TTL

2: Ext.A (外部調光: オート)

3: Ext.M (外部調光: マニュアル)


-  ● EOS デジタルカメラ、およびEOS Kiss 7 使用時は、1 に設定しないでください。機種により、発光しなかったり常時フル発光になるなど、自動調光制御が正しく行われません。
- 1, 2, 3 設定時は電波通信/光通信ワイヤレスストロボ撮影はできません。

-  ● 1 は B タイプのEOS フィルムカメラ用の設定です (p.138)。
- B タイプカメラ使用時に 0 に設定しても、E-TTL II/E-TTL 自動調光撮影はできません。

C.Fn-08:  AF (AF補助光の投光)**0: ON (する)****1: OFF (しない)**

ストロボからのAF補助光の投光を禁止します。

C.Fn-10:  (スレープのオートパワーオフ時間)

電波通信／光通信ワイヤレススレープ設定時に、オートパワーオフ機能が作動するまでの時間を変更することができます。なお、スレープがオートパワーオフ状態になると、表示パネルに  が表示されます。この機能はスレープごとに設定します。

0: 60min (60分)**1: 10min (10分)****C.Fn-11:  (スレープのオートパワーオフ解除)**

電波通信／光通信ワイヤレスストロボ撮影時にマスターのテスト発光ボタンを押すと、オートパワーオフ状態になったスレープの電源を入れることができます。

オートパワーオフ状態のスレープが、この機能を受け付ける時間を変更することができます。この機能はスレープごとに設定します。

0: 8h (8時間以内)**1: 1h (1時間以内)**

C.Fn-12: (外部電源使用時の充電)

0: + (ストロボ本体と外部電源)

内部電源と外部電源を使用した充電を行います。

1: (外部電源のみ)

ストロボを制御するために内部電源が必要ですが、ストロボを発光させるための充電は外部電源を使用するため、内部電源の消費を抑えることができます。

C.Fn-13: (調光補正の設定方法)

0: + (ボタン+ダイヤル)

1: (ダイヤルで直接設定)

 ボタンを押さずに、直接  を回して調光補正量や発光量を設定することができます。

C.Fn-20: (電子音)

ストロボの充電が完了したときに電子音を鳴らすことができます。

0: OFF (切)


電子音は鳴りません。

1: ON (入)


通常のストロボ (クリップオン) 撮影のときは、充電が完了すると電子音が鳴ります。

電波通信ワイヤレスマスター設定時は、すべてのストロボ (マスター / スレーブ) の充電が完了したときにマスターの電子音が鳴ります。マスターの電子音でワイヤレスシステム全体の充電確認を行うことができます。なお、スレーブのC.Fn-20の設定は、0, 1のどちらでも構いません。

光通信ワイヤレスマスター設定時、および電波通信 / 光通信ワイヤレススレーブ設定時、連動撮影時 (p.84) は、充電が完了すると1に設定したストロボごとに電子音が鳴ります。


 1設定時は、発光部の温度が上昇して発光制限 (p.124) が行われているときも電子音が鳴ります。


C.Fn-21:  /  /  (配光特性)


照射角を  (自動設定) に設定したときの、撮影画角に対するストロボ光の配光 (照射角) 特性を変更することができます。


0:  (標準)

撮影画角に最適な照射角が自動設定されます。

1:  (ガイドナンバー優先)

0設定時よりも写真の周辺部分が少し暗くなりますが、光量を優先したいときに有効です。実際の撮影画角よりも、やや望遠側寄りに照射角が自動設定されます。表示が  になります。

2:  (配光優先)

0設定時よりもストロボ撮影できる距離が少し短くなりますが、写真の周辺部分の光量低下を抑えたいときに有効です。実際の撮影画角よりも、やや広角側寄りに照射角が自動設定されます。表示が  になります。

C.Fn-22:  (表示パネルの照明)

ボタン、ダイヤルを操作すると表示パネルが照明されます。この照明の設定を変更することができます。



0: 12sec (12秒間照明)

1: OFF (照明しない)

2: ON (常時照明)

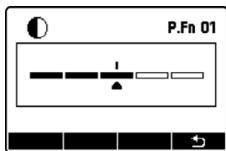
C.Fn-23:   (スレーブの充電確認)

ワイヤレスストロボ撮影時にスレーブの充電が完了すると、スレーブのAF補助光の投光部が点滅しますが、この点滅を禁止することができます。この機能はスレーブごとに設定します。

0:    (AF補助光点滅と \mathcal{L} ランプ)1:   (\mathcal{L} ランプ)

P.Fn: パーソナル機能で変更できる内容

P.Fn-01: (表示パネルの濃度)



表示パネルの表示濃度を5段階で調整することができます。

P.Fn-02: (表示パネル照明色：通常撮影)

通常撮影（クリップオンストロボ撮影）時の表示パネル照明の色を設定することができます。

0：GREEN（緑）

1：ORANGE（オレンジ）

P.Fn-03: (表示パネル照明色：マスター)

電波通信／光通信ワイヤレスマスター設定時、連動撮影マスター設定時の表示パネル照明の色を設定することができます。

0：GREEN（緑）

1：ORANGE（オレンジ）

P.Fn-04: (表示パネル照明色：スレーブ)

電波通信／光通信ワイヤレススレーブ設定時、連動撮影スレーブ設定時の表示パネル照明の色を設定することができます。

0：ORANGE（オレンジ）

1：GREEN（緑）

P.Fn-05:  QUICK (クイック発光)

充電の待ち時間を短くするため、充電ランプが緑色（フル充電前）の状態が発光させるか（クイック発光を行うか）どうかを設定することができます。

0 : ON (する)

1 : OFF (しない)



P.Fn-06-1とP.Fn-05-0を設定すると、連続撮影時（p.84）にクイック発光を行うことができます。ただし、連続撮影時にクイック発光を行うと、発光量が低下するため、露出アンダーになりやすくなります。

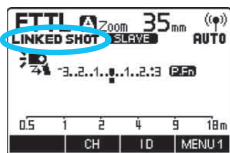
P.Fn-06:  LINKED SHOT (連動撮影時の発光)

連動撮影時に（p.84）、カメラに装着しているストロボを発光させるかどうかを設定することができます。連動撮影を行うストロボごとに設定します。

0 : OFF (しない)

連動撮影時にストロボは発光しません。

1 : ON (する)



連動撮影時にストロボが発光します。なお、1設定時の表示は、0設定時と異なり、左図のような表示になります。



連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。

7

資料

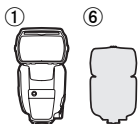
この章では、ストロボシステムやよくある質問、Bタイプカメラとの組み合わせについて説明しています。

600EX II-RTのシステム

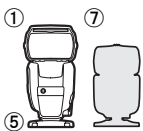
ワイヤレスストロボ撮影

電波通信

マスター機能を備えた
スピードライト/
トランスミッター



スレーブ機能を備えた
スピードライト

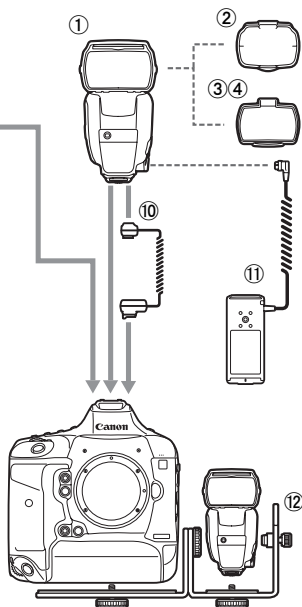


光通信

マスター機能を備えた
カメラ/スピードライト/
トランスミッター



スレーブ機能を備えたスピードライト



- ① スピードライト 600EX II-RT
- ② バウンスアダプター SBA-E3 (600EX II-RTに付属)
- ③ カラーフィルター SCF-E3OR1 (淡/600EX II-RTに付属)
- ④ カラーフィルター SCF-E3OR2 (濃/600EX II-RTに付属)
- ⑤ ミニスタンド (600EX II-RTに付属)

- ⑥ **電波通信ワイヤレスマスター機能を備えた機器**
600EX-RT、430EX III-RT、ST-E3-RT
- ⑦ **電波通信ワイヤレススレーブ機能を備えたスピードライト**
600EX-RT、430EX III-RT
- ⑧ **光通信ワイヤレスマスター機能を備えた機器**
600EX-RT、600EX、580EX II、580EX、550EX、90EX、MT-24EX、MR-14EX II、MR-14EX、ST-E2、および内蔵ストロボによる光通信ワイヤレスマスター機能を備えたEOSデジタルカメラ
- ⑨ **光通信ワイヤレススレーブ機能を備えたスピードライト**
600EX-RT、600EX、580EX II、580EX、550EX、430EX III-RT、430EX III、430EX II、430EX、420EX、320EX、270EX II
- ⑩ **オフカメラシューコードOC-E3**
600EX II-RTをカメラから約60cmまで離して使用することができます。
- ⑪ **コンパクトバッテリーパックCP-E4N**
携帯性に優れた小型軽量の外部電源です。600EX II-RT同等の防塵・防滴機能を備えています。
- ⑫ **スピードライトブラケットSB-E2**



- キヤノン製以外の外部電源を使用すると、故障の原因になることがあります。
- ⑨の中で発光グループ（A、B、C）の切り換え機能を備えていないスピードライトを使用したときは、光通信ワイヤレス撮影時に発光グループAのスレーブとして使用できます（発光グループB、Cのスレーブとしては使用できません）。



外部電源はコンパクトバッテリーパックCP-E4N（別売）の使用をおすすめします。

温度上昇による発光制限について



ストロボを使用した連続撮影やマルチ発光、モデリング発光を短時間に繰り返し行うと、発光部や電池、電池室付近の温度が高くなることがあります。

繰り返し発光を行うと、過熱による発光部の劣化や損傷を防ぐため、発光間隔が約4秒までの範囲で段階的に長くなります。その状態でさらに繰り返し発光を行うと、自動的に発光制限が行われます。

なお、発光制限中は、温度上昇を表す警告表示が行われ、発光間隔（ストロボ撮影できる間隔）が強制的に約8秒（レベル1）、約20秒（レベル2）になります。

温度上昇警告

ストロボ内部の温度が上昇すると、2段階で警告表示が行われます。レベル1の状態ですらに繰り返し発光を行うと、レベル2の状態になります。

表示／音	レベル1 (発光間隔：約8秒)	レベル2 (発光間隔：約20秒)
マーク		
表示パネル照明	赤色（点灯）	赤色（点滅）
電子音	C.Fn-20-1設定時：警告音あり	

連続発光回数と休止時間

警告表示（レベル1）までの連続発光回数と、通常のストロボ撮影ができるようになるまでに必要な休止時間の目安は、次のとおりです。

機能	警告表示（レベル1）までの 連続発光回数（目安）					必要 休止 時間 （目安）
	照射角					
	14mm	20mm	24mm	28mm	35mm 以上	
連続フル発光（p.17）	60回 以上	65回 以上	70回 以上	85回 以上	100回 以上	40分 以上
モデリング発光（p.47）	40回 以上	40回 以上	40回 以上	50回 以上	60回 以上	
マルチ発光（p.42）	発光条件により異なる					

△ 注意

連続発光を行ったときは発光部や電池、電池室付近に触れないでください。
ストロボを使用した連続撮影やモデリング発光を短時間に繰り返し行ったときは、発光部や電池、電池室付近に触れないでください。発光部や電池、電池室付近が高温になり、やけどの原因になる恐れがあります。

- 発光制限中に電池室ふたの開閉を行わないでください。発光制限が解除されるため大変危険です。
- レベル1の警告が表示されていなくても、発光部の温度が上昇し始めているときは、発光間隔が長くなります。
- レベル2の警告が表示されたときは、40分以上休止してください。
- レベル1の警告が表示されたあと、発光を休止しても、レベル2の警告が表示されることがあります。
- 高温下でストロボ撮影を行ったときは、前ページの表に示した回数よりも早く発光制限が行われることがあります。
- 発光回数に関する注意については、17ページ（連続発光）、42ページ（マルチ発光）、47ページ（モデリング発光）を参照してください。
- 温度上昇などの環境要因により、まれに発光しないことがあります。
- 前ページの「警告表示（レベル1）までの連続発光回数」は、600EX II-RT 単体使用時、および600EX II-RTにコンパクトバッテリーパックCP-E4N（別売）を併用したときの回数です。CP-E4N以外の外部電源を使用したときは、警告表示までの発光回数が少なくなります。
- バウンスアダプター使用時、カラーフィルター使用時、およびバウンスアダプターとカラーフィルターを同時に併用したときは、警告表示までの発光回数がやや少なくなります。
- C.Fn-20-0設定時は（p.116）、発光制限状態になっても、警告音は鳴りません。
- C.Fn-22-1設定時は（p.117）、発光部の温度が上昇しても、表示パネルの赤色照明による警告表示は行われません。
- コンパクトバッテリーパックCP-E4N（別売）使用時は、CP-E4N使用説明書をあわせてお読みください。

故障かな？と思ったら

「ストロボが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてストロボをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理お問合せ専用窓口にご相談ください。

● 通常撮影

電源が入らない

- 電池が正しい向きに入っているか確認してください (p.18)。
- 電池室ふたが閉まっているか確認してください (p.18)。
- 新しい電池に交換してください。

ストロボが発光しない

- 取り付け脚をアクセサリシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (p.20)。
- 約30秒たっても〈**CHARGE**〉の表示が消えないときは、電池を交換してください (p.18)。
- ストロボとカメラの接点部分が汚れているときは、接点 (p.10) を乾いた布などで拭いてください。
- 連続発光を短時間に繰り返し行い、発光部の温度上昇により発光制限が行われているときは、発光間隔が長くなります (p.124)。

電源が勝手に切れる

- ストロボのオートパワーオフ機能が働いています (p.22)。シャッターボタンを半押しするか、テスト発光ボタンを押してください (p.21)。

露出アンダー／オーバーになる

- 主被写体が暗い／明るいときは、調光補正を行ってください (p.28)。
- 画面内に反射率が高いものがあるときは、FEロックを行ってください (p.30)。
- ハイスピードシンクロ撮影時は、シャッター速度が高速になるほど、ガイドナンバーが低下します。被写体に近づいて撮影してください (p.31)。

写真の下側が暗い

- 被写体から0.5m以上離れて撮影してください。
- 1m以内の被写体を撮影するときは、バウンス位置を下向き7° にしてください (p.34)。
- レンズにフードが付いているときは取り外してください。

写真の周辺が暗い

- 照射角の設定を〈**A**〉(自動設定) にしてください (p.38)。
- 照射角を手動設定するときは、撮影画角よりも広い照射角を設定してください (p.38)。
- C.Fn-21-1に設定されていないか確認してください (p.117)。

写真が大きくブレている

- 暗い場所で〈**Av**〉絞り優先AEモードで撮影すると、自動的にスローシンクロ撮影に(シャッター速度が遅く)なります。三脚を使用するか、〈**P**〉プログラムAE、または全自動モードで撮影してください (p.25)。なお、[Avモード時のストロボ同調速度] で同調速度を設定することもできます (p.54)。

照射角が自動設定されない

- 照射角を〈**A**〉(自動設定)に設定してください (p.38)。
- 取り付け脚をアクセサリシューの奥まで入れ、ロックレバーを右方向にスライドさせて、しっかりとカメラに固定してください (p.20)。

照射角が手動設定できない



- バウンスアダプターを取り外してください (p.36)。
- ワイドパネルを取納してください (p.39)。

機能が設定できない

- カメラの撮影モードを〈**P/Tv/Av/M/bulb(B)**〉(応用撮影ゾーン)に設定してください。
- ストロボの電源スイッチを〈**LOCK**〉ではなく、〈**ON**〉の位置にしてください (p.21)。

●電波通信ワイヤレスストロボ撮影

スレーブが発光しない/意図せずフル発光する

- マスターを〈 MASTER〉、スレーブを〈 SLAVE〉に設定してください (p.63)。
- マスターとスレーブの通信チャンネル、電波通信IDを同じ設定にしてください (p.63~65)。
- スレーブがマスターの通信可能範囲内にあるか、確認してください (p.58)。
- 通信チャンネルをスキャンして電波状態の良いチャンネルに設定してください (p.65)。
- マスターからできるだけ見通しの良い場所にスレーブを設置してください。
- スレーブ本体の正面部分をマスターに向けてください。
- カメラの内蔵ストロボは、電波通信ワイヤレス撮影のマスターとしては使用できません。

露出オーバーになる

- 発光グループA, B, Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください (p.76)。
- 発光グループごとに発光モードを設定した撮影のときは、〈ETTL〉〈Ext.A〉に設定した複数の発光グループを主被写体に向けて発光させないでください (p.81)。

〈 Tv〉が表示される

- シャッター速度をストロボ同調最高シャッター速度から1段遅くしてください (p.61)。

スレーブからのリモートリリースができない

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70では、スレーブからのリモートリリースはできません。

表示パネル照明が点いたり消えたりする

- スレーブ（発光グループ）の充電状態に応じて、マスターの表示パネル照明が点灯／消灯します。71ページの『表示パネル照明について』を参照してください。

● 連動撮影

標準露出にならない／露出ムラになる



- 連動撮影時に複数のストロボを同時に発光させると、適切な露出が得られないことや、露出ムラが発生することがあります。発光させるストロボを1台にしたり、セルフタイマーを使って発光するタイミングをずらすことをおすすめします。

スレーブカメラとして使用できない

- 2011年までに発売されたカメラ、およびEOS Kiss X80/X70と組み合わせたときは、「マスターカメラ」としてのみ使用できます。「スレーブカメラ」としては使用できません。

●光通信ワイヤレスストロボ撮影

スレーブが発光しない/意図せずフル発光する

- マスターを〈 MASTER〉、スレーブを〈 SLAVE〉に設定してください (p.92)。
- マスターとスレーブの通信チャンネルを同じ設定にしてください (p.93)。
- スレーブがマスターの通信可能範囲内にあるか、確認してください (p.90)。
- スレーブのワイヤレス受信部をマスターに向けてください (p.90)。
- マスターからできるだけ見通しの良い場所にスレーブを設置してください。
- マスターとスレーブの距離が近すぎると、正しく通信できないことがあります。
- カメラの内蔵ストロボをマスターとして使用するときは、カメラの内蔵ストロボを上げて、カメラの[内蔵ストロボ機能設定]の画面で[ワイヤレス機能]の設定を行ってください。

マスターが発光する

- マスター発光 OFF に設定しても、光通信でスレーブを制御するため、マスターが発光します (p.94)。

露出オーバーになる

- 発光グループA, B, Cの3グループで自動調光撮影を行うときは、発光グループCを主被写体に向けて発光させないでください (p.104)。

主な仕様

■型式

型式	E-TTL II / E-TTL / TTL 自動調光 クリップオンタイプストロボ
使用カメラ	EOS・Aタイプカメラ (E-TTL II / E-TTL 自動調光) EOS・Bタイプカメラ (TTL 自動調光)

■発光部

ガイドナンバー	約60 (照射角200mm設定時、ISO100・m) * バウンスアダプター、カラーフィルターなし
照射角	レンズ焦点距離20~200mm (ワイドパネル使用時 14mm) の撮影画角に対応 ・ 自動設定 (撮影画角と画面サイズに応じて照射角を自動設定) ・ 手動設定
バウンス	上: 90°、下: 7°、左: 180°、右: 180° 専用のバウンスアダプター付属
閃光時間 (通常発光時)	1/1 発光: 約 1/890 秒 1/16 発光: 約 1/9700 秒 1/2 発光: 約 1/1200 秒 1/32 発光: 約 1/15000 秒 1/4 発光: 約 1/2800 秒 1/64 発光: 約 1/23000 秒 1/8 発光: 約 1/5600 秒 1/128 発光: 約 1/34000 秒
色温度情報通信	発光時のストロボ色温度情報をカメラに送信
カラーフィルター	専用のカラーフィルター (2種) 付属

■露出制御

露出制御方式	E-TTL II / E-TTL / TTL 自動調光、マニュアル発光、マルチ発光、外部調光オート、外部調光マニュアル
調光連動範囲 (EF50mm F1.4 使用時・ISO100)	通常発光: 約0.5~27.8m クイック発光: 約0.5~14.8m (ガイドナンバー 20.8時) ハイスピードシンクロ: 約0.5~14.7m (1/250秒時)
調光補正	1/3、1/2段ステップ±3段
FEB	1/3、1/2段ステップ±3段 (調光補正との併用可能)
FEロック	カメラのマルチファンクションボタン、FEロック / AE ロックボタンによる

主な仕様

ハイスピードシンクロ.....	可能
	* 電波通信ワイヤレス撮影時は、2012年以降に発売されたEOSデジタルカメラ（EOS Kiss X80/X70を除く）使用時のみ可能
マニュアル発光.....	1/1～1/128発光（1/3段ステップ）
マルチ発光.....	可能（1～500Hz）
	* 光通信ワイヤレス撮影時は1～199Hz
モデリング発光.....	カメラの絞り込みボタン、ストロボのテスト発光ボタンによる

■ストロボ充電

発光間隔（充電時間）.....	通常発光：約0.1～5.5秒、クイック発光：約0.1～3.3秒
	* 単3形アルカリ乾電池使用時
充電ランプ.....	赤色点灯：通常発光可能 緑色点灯：クイック発光可能

■AF補助光

方式.....	赤外光方式
対応AF.....	TTL二次結像位相差AF 1～65点AFに対応（レンズ焦点距離28mm以上） ファインダー撮影、およびライブビュー撮影／動画撮影時のクイックAF（クイックモード）に対応
有効距離.....	中央：約0.6～10m、周辺：約0.6～5m

■電波通信ワイヤレスマスター／スレーブ機能

周波数.....	2405MHz～2475MHz
変調方式.....	1次変調：OQPSK、2次変調DS-SS
ワイヤレス設定.....	マスター／スレーブ
通信チャンネル.....	オート、Ch.1～15
電波通信ID.....	0000～9999
スレーブ制御.....	最大5グループ（A、B、C、D、E）、最大15台
スレーブ設定.....	発光グループA、B、C、D、E
通信可能距離.....	約30m
	* マスター～スレーブ間に障害物、遮蔽物がなく、他の機器との電波干渉がない場合
	* 配置条件や周囲の環境、気象条件などにより、通信可能距離が短くなることがある

光量比制御	1:8~1:1~8:1、1/2段ステップ
充電確認	表示パネル（マスター）：表示内容／照明色、充電ランプ点灯（マスター／スレーブ）、電子音（C.Fn-20-1 設定時：マスター／スレーブ）、AF補助光投光部点滅（スレーブ）により充電完了の確認が可能
連動撮影	可能

■光通信ワイヤレスマスター／スレーブ機能

通信方式	光パルス
ワイヤレス設定	マスター／スレーブ
通信チャンネル	Ch.1~4
スレーブ制御	最大3グループ（A, B, C）
スレーブ設定	発光グループA, B, C
通信可能距離	屋内：約0.7~15m、屋外：約0.7~10m（正面時）
受信角	マスターに対して左右±40°、上下±30°
光量比制御	1:8~1:1~8:1、1/2段ステップ
充電確認	充電ランプ点灯（マスター／スレーブ）、電子音（C.Fn-20-1 設定時：マスター／スレーブ）、AF補助光投光部点滅（スレーブ）により充電完了の確認が可能

■カスタマイズ機能

カスタム機能	15種
パーソナル機能	6種

■電源

本体電源	単3形アルカリ乾電池 4本 * 単3形ニッケル水素電池使用可能
発光回数	約100~700回 * 単3形アルカリ乾電池使用時
電波通信ワイヤレス	
撮影可能時間	連続約9時間 * マスター発光OFF、単3形アルカリ乾電池使用時
光通信ワイヤレス	
撮影可能回数	約1500回 * マスター発光OFF、単3形アルカリ乾電池使用時

主な仕様

オートパワーオフ	約90秒放置で電源OFF * 電波通信ワイヤレスマスター、連動撮影時：約5分 * スLEEP設定時：約60分
外部電源	コンパクトバッテリーパックCP-E4N使用可能

■大きさ・質量

大きさ	約78.7 (幅) × 143.2 (高さ) × 122.7 (奥行) mm (防塵・防滴アダプターを除く)
質量	約435g (ストロボ本体のみ、電池別)

■動作環境

使用可能温度	0℃～+45℃
使用可能湿度	85%以下

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打ち切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

ガイドナンバー (ISO100・m/約)

● 通常 (フル) 発光 / クイック発光

照射角 (mm)	14	20	24	28	35	50
通常 (フル) 発光	15	26	27	28	34	39
クイック発光	フル発光時の約1/2~1/6と同じ					

照射角 (mm)	70	80	105	135	200
通常 (フル) 発光	46	49	54	57	60
クイック発光	フル発光時の約1/2~1/6と同じ				

● マニュアル発光

発光量	照射角 (mm)					
	14	20	24	28	35	50
1/1	15	26	27	28	34	39
1/2	10.6	18.4	19.1	19.8	24.0	27.6
1/4	7.5	13.0	13.5	14.0	17.0	19.5
1/8	5.3	9.2	9.5	9.9	12.0	13.8
1/16	3.8	6.5	6.8	7.0	8.5	9.8
1/32	2.7	4.6	4.8	4.9	6.0	6.9
1/64	1.9	3.3	3.4	3.5	4.3	4.9
1/128	1.3	2.3	2.4	2.5	3.0	3.4

発光量	照射角 (mm)				
	70	80	105	135	200
1/1	46	49	54	57	60
1/2	32.5	34.6	38.2	40.3	42.4
1/4	23.0	24.5	27.0	28.5	30.0
1/8	16.3	17.3	19.1	20.2	21.2
1/16	11.5	12.3	13.5	14.3	15.0
1/32	8.1	8.7	9.5	10.1	10.6
1/64	5.8	6.1	6.8	7.1	7.5
1/128	4.1	4.3	4.8	5.0	5.3

Bタイプカメラとの組み合わせ

スピードライト600EX II-RTとBタイプカメラ（A-TTL/TTL自動調光に対応したEOSフィルムカメラ）を組み合わせたときに、使用できる機能と使用できない機能は以下のとおりです。

Bタイプカメラに取り付けたときは、ストロボの表示パネルに〈TTL〉と表示されます。

● Bタイプカメラで使用できる機能

- TTL自動調光
- ストロボ調光補正
- FEB
- マニュアル発光
- マルチ発光
- 後幕シンクロ
- 外部調光マニュアル
- 光通信ワイヤレスストロボ撮影
 - ・ マニュアル発光
 - ・ マルチ発光

● Bタイプカメラで使用できない機能

- E-TTL II/E-TTL自動調光
- FEロック
- ハイスピードシンクロ
- クイック発光
- モデリング発光
- 外部調光オート
- 電波通信ワイヤレスストロボ撮影
- 連動撮影
- 光通信ワイヤレスストロボ撮影
 - ・ 自動調光撮影
 - ・ 光量比制御

電波通信ワイヤレス機能について

■電波通信ワイヤレス機能が使えらる国や地域について

電波通信ワイヤレス機能の使用は、国や地域ごとの法令等により規制されていることがあるため、違反すると罰せられることがあります。そのため、電波通信ワイヤレス機能を使用できる国や地域については、キヤノンのWebサイトで確認してください。

なお、それ以外の国や地域で電波通信ワイヤレス機能を使用した際のトラブル等については、弊社は一切責任を負いかねます。

■モデルナンバー

600EX II-RT : DS401131 (電波通信モジュールモデル : CH9-1216)

- ・ 次の事項を行うと、法律で罰せられることがあります。「本製品を分解、改造すること」、「本製品上の証明ラベルをはがすこと」。
- ・ 医療用の装置や、電子機器の近くで本製品を使用しないでください。医療用の装置や、電子機器の動作に影響を及ぼす恐れがあります。
- ・ 600EX II-RTには、電波法に基づく認証を受けた電波通信装置が内蔵されており、証明ラベルは電波通信設備に添付されています。

■電波干渉に関するご注意

この機器の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）、および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。


- ① この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局、および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
- ② 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、お客様相談センターにご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談下さい。
- ③ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局、あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、お客様相談センターへお問い合わせ下さい。

2.4 DS 2

この表示は、2.4GHz 帯を使用している電波通信機器であることを意味します。

- ・ 本製品は、他の電波を発する機器から、電波干渉を受ける場合があります。これらの機器からできるだけ遠く離すか、ご利用時間を分けるなどして、電波干渉を避けて使用してください。

Complies with
IDA Standards
DB00671



製品に表記している図記号について

=== 直流

使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分してください。

索引

英数字

12秒/16秒タイマー	4
18%標準反射板	41
AF補助光	26, 115, 117
Avモード時の	
ストロボ同調速度	54
Av (絞り優先AE)	25
Aタイプカメラ	2
Bタイプカメラ	138
C.Fn	110, 111, 113
E-TTL II/E-TTL自動調光	24, 25
E-TTL II (調光方式)	54
Ext.A (外部調光オート)	45
Ext.M (外部調光マニュアル)	46
FEB	29
FEロック (FEL)	30
Gr (グループ発光)	79
INDIVIDUAL SLAVE	15, 107
ISO感度	46
LINK	11, 66, 69
LINKED SHOT	15, 84
LOCK	22
MULTI	42
M	
(マニュアル発光)	40, 77, 105
M (マニュアル露出)	25
P.Fn	110, 112, 118
P (プログラムAE)	24
TTL自動調光	114, 138
Tv (シャッター優先AE)	25
Zoom	38

あ

アクセサリ	16
アクセサリシュー	20

後幕シンクロ	32
安全上のご注意	8
一括解除	56, 112
色温度情報通信	26
応用撮影	
ゾーン	4, 27, 51, 57, 89, 109
応用 マーク	4
オートパワーオフ	22, 113, 115
温度上昇	124

か

ガイドナンバー	137
外部調光オート	45
外部調光マニュアル	46
外部電源	116, 123
各部名称	10
カスタム機能	
(C.Fn)	110, 111, 113
画面サイズ対応自動ズーム	26
カラーフィルター	16, 48, 122
機能設定	51
キャッチライト撮影	35
距離表示	24, 40, 113
近距離ストロボ撮影	34
クイック発光	18, 21, 119
グループ制御	76, 104
グループ発光	79
警告表示	61, 124
ケース	16
光量比	
2灯 (A:B)	73, 101
3灯 (A:B C)	75, 103

さ

最大連続発光回数	44
先幕シンクロ	54

撮影距離.....	40
システム図.....	122
シャッター速度.....	25
充電.....	21
充電ランプ.....	21, 69, 97, 119
照射角.....	38, 117
初期化.....	50, 55
シンクロ設定.....	54
シンクロ端子.....	10
ズーム.....	38
スキャン.....	65
スタンド.....	16
ストロボ機能設定.....	51
ストロボ制御.....	52
ストロボ同調速度.....	54, 61
ストロボ配置.....	58, 90
ストロボメータード マニュアル.....	41
スレーブストロボ.....	15, 57, 89
充電 確認.....	69, 71, 81, 97, 117
スレーブ設定.....	63, 92
全自動ストロボ撮影.....	24

た

単独スレーブ.....	107
調光確認ランプ.....	24
調光方式.....	54, 114
調光補正.....	28, 54, 72, 100
調光レベル.....	12, 28, 41
調光連動範囲.....	12, 24, 45
通常発光.....	18, 137
通信可能距離.....	58, 60, 90
通信チャンネル.....	63, 93
テスト発光.....	21, 70, 82, 98
電源スイッチ.....	21

電子音.....	69, 116
電池.....	18
電波通信ID.....	63, 64
電波通信ワイヤレス撮影.....	57
グループ発光.....	79
全自動1灯.....	68
全自動2灯 (A:B).....	73
全自動3灯 (A:B C).....	75
マニュアル発光.....	77
同調速度.....	25, 54, 61
トランスミッター.....	84, 122

は

パーソナル機能 (P.Fn).....	110, 112, 118
配光特性.....	117
ハイスピード シンクロ.....	31, 62, 72, 100
バウンス.....	33
バウンスアダプター... ..	16, 36, 122
発光回数.....	18
発光間隔.....	18, 124
発光グループ.....	73, 75, 77, 79, 101, 103, 105
発光周波数.....	42
発光制限.....	124
発光部.....	10, 33
発光 モード... ..	12, 13, 14, 24, 40, 54
発光量.....	40, 42, 77, 105
光通信ワイヤレス撮影.....	89
全自動1灯.....	96
全自動2灯 (A:B).....	101
全自動3灯 (A:B C).....	103
マニュアル発光.....	105
表示パネル.....	12
照明.....	22, 71, 117

照明色.....	118
濃度.....	118

ま

マスターストロボ.....	14, 57, 89
マスター設定.....	63, 92
マスター発光.....	66, 94
マニュアル発光.....	40, 77, 105
マルチ発光.....	42, 72, 100
メモリー機能.....	67, 95
モデリング発光.....	47, 82

ら

リモートリリース.....	83
連動撮影.....	15, 84, 119
ロック機能.....	22

わ

ワイドパネル.....	39
ワイヤレス撮影.....	57, 89
ワイヤレス作動範囲.....	58, 90
ワイヤレス設定.....	63, 92
ワイヤレス ボタン.....	11, 63, 85, 92, 107



キヤノン株式会社

キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6

製品情報や取り扱い方法に関するご相談窓口

製品に関する情報や、よくあるお問い合わせなどのサポート情報を掲載しています。
インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

EOSホームページ : canon.jp/eos
EOS・サポートナビ : canon.jp/eos-navi

電話でのお問い合わせは、以下へお願いします。

お客様相談センター（全国共通番号）
050-555-90002

受付時間：9：00～18：00

（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

- ※ おかけ間違いのないようご注意ください。
- ※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556をご利用ください。
- ※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理お問合せ専用窓口にお問い合わせください。

本書の記載内容は2016年1月現在のもので、それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。